

ã Ä š • ¬ x



2 0 1 9



Trilateral Cooperation Secretariat



刊行によせて

このたび、調査レポート「日中韓地方都市トライアングル交流 2019」を出版する運びとなりました。近年、二都市間の姉妹・友好都市締結などからなる「辺」が3つつながって「三角形」が形成され、それに伴い、日中韓の地方レベルのトライアングル交流が徐々に増えつつあります。さらに、2014年からスタートした「東アジア文化都市」事業においては、毎年選定された日中韓の3都市は年間を通じて多彩な文化・青少年交流行事を行い、その年以降も交流を継続しています。これらすべての地方間トライアングル交流は、当事務局の調査によると、継続中のものだけでも20組近くに達しています。東アジア文化都市が毎年3都市ずつ選定されていることを考えると、このような形の交流形態は今後も着実に増加していくことが期待されます。

これまで、地方交流についてまとめた資料や研究は、主に二国間か多国間のいずれかに重点が置かれており、「日中韓の地方交流」の全体像については、まとまった資料はほとんどなかったと思われます。長年にわたり日中韓の交流事業に取り組む地方政府も、他の取組みについては把握できていない場合が多く、これから日中韓の交流事業を開始しようとする地方政府にとっても、まとまった形で先事例を学ぶ術がなかったのが現状です。この情報の空白を埋め、日中韓の地方レベルでの交流活性化の一助とすべく、本件調査レポートを刊行した次第です。作成にあたっては、多くの地方政府及び関係機関・団体より支援を賜りました。ここに深く御礼申し上げます。

今年は、1999年にASEAN+3の際にはじめて日中韓の首脳会合が行われてから20周年の節目の年であり、この調査レポートも「日中韓協力20周年」を記念して刊行する運びとなりました。国単位では20周年ですが、地方都市の交流に目を向けると、同じ99年に、日中韓の地方都市が一同に会する「日中韓3か国地方政府交流会議」がスタートし、また、それ以前から、いくつかの地方レベルの日中韓交流が始まっており、3国の協力が、地方レベルの協力により後押しされ、支えられていることが実感できます。

3国は、2018年の平昌、2020年の東京、2022年の北京と、三回連続でオリンピック・パラリンピックを開催することとなっています。日中韓の協力は、困難な二国間関係を伴うことが常ですが、そのような時だからこそ、地方のパワーも得つつ、交流の機運を一層高めるべく努力していく必要があります。当事務局としても、今後も、様々な形で地方交流の取組みを応援していきたいと考えています。本件調査レポートを通じて、日中韓の地方レベルの交流の事例が共有され、より一層活性化していくことを願ってやみません。

道上 尚史
日中韓三国協力事務局 事務局長

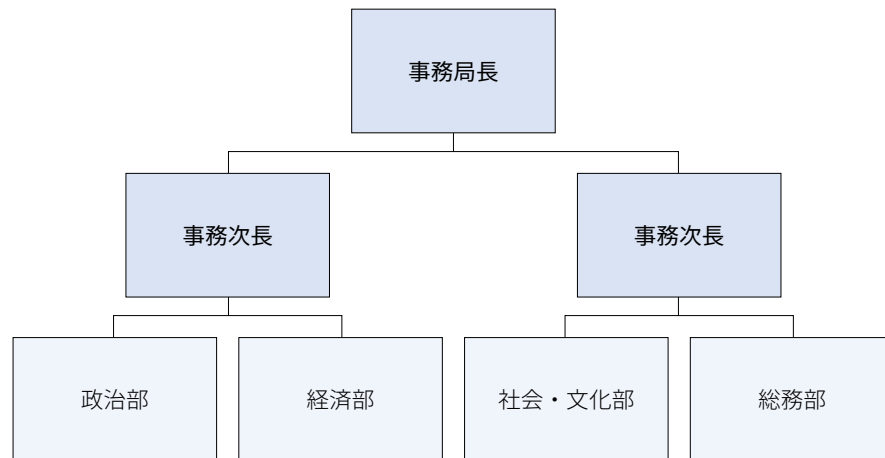
日中韓三国協力事務局の紹介

日中韓三国協力事務局（Trilateral Cooperation Secretariat: TCS）は北東アジア地域の平和と安定、繁栄を促進するために設立された国際機関です。日本、中国、韓国の三政府が共同で署名し批准した協定に基づき、2011年9月にソウルに設立されました。三国の平等性を基本とし、各国政府が毎年事務局運営予算の3分の1ずつを分担しています。

TCSの目標は、さまざまな機関やステークホルダーが存在する日中韓において、三国協力の中心的役割を果たすことです。三国間の未来志向かつダイナミックな協力関係をより強固なものとしていくべく努めてまいります。

- 主な機能**
- 三国政府間協議メカニズムへの支援
 - 三国協力事業の探求および促進
 - 他機関との交流および調整
 - データベースの構築、研究および出版

組織構成



協議理事会

協議理事会は事務局の最高意思決定機関であり、各国から2年ごとに持ち回りで任命される事務局長1名および事務次長2名で構成されています。

第1期協議理事会	2011年9月 - 2013年8月	事務局長 事務次長 事務次長	韓国 日本 中国	申鳳吉（シン・ボンギル） 松川るい 毛寧（もう・ねい）
第2期協議理事会	2013年9月 - 2015年8月	事務局長 事務次長 事務次長	日本 中国 韓国	岩谷滋雄 陳峰（ちん・ほう） 李鍾憲（イ・ジョンホン）
第3期協議理事会	2015年9月 - 2017年8月	事務局長 事務次長 事務次長	中国 韓国 日本	楊厚蘭（よう・こうらん） 李鍾憲（イ・ジョンホン） 梅澤彰馬
第4期協議理事会	2017年9月 - 2019年8月	事務局長 事務次長 事務次長	韓国 日本 中国	李鍾憲（イ・ジョンホン） 山本恭司 韓梅（かん・ばい）
第5期協議理事会	2019年9月 - 2021年8月	事務局長 事務次長 事務次長	日本 中国 韓国	道上尚史 曹静（そう・せい） 姜度好（カン・ドホ）

部署

協議理事会の下に4つの部署があり、三国政府から派遣された専門職員および各国から公募形式で選抜された一般職員で構成されています。

政治部 外交 安全保障 地域情勢 国際情勢 防災 シンクタンク・ネットワーク 公共外交 渉外	経済部 貿易・投資 運輸・物流 税関 知的財産権 情報通信技術 財政・金融 科学技術 標準化	エネルギー 消費者対策 環境保護 農業 水資源 森林・林業
社会・文化部 文化 青少年交流 メディア交流 教育 保健・福祉 観光 地方自治体交流 人事行政 スポーツ	総務部 企画・調整 人事 行政・法務支援 予算・会計業務 文書管理 ウェブサイト・SNS管理	

1999.11	三国協力のはじまり 第3回ASEAN+3サミットの際、初の日中韓首脳会議開催（フィリピン・マニラ）
2008.12	三国協力の制度化 ASEAN+3首脳会議という枠組みから独立し、第1回日中韓サミットを開催(日本・福岡)
2009.10	三国協力のための常設事務局の必要性を確認 第2回日中韓サミットで、三国協力のための常設事務局設置の必要性について合意(中国・北京)
2010.05	「三者間協力事務局の設置に関する覚書」 第3回日中韓サミットで、「三者間協力事務局の設置に関する覚書」を発表(韓国・済州)
2010.12	「三者間協力事務局の設立に関する協定」 三国政府が「三者間協力事務局の設立に関する協定」に署名(韓国・ソウル)
2011.09	TCS開設 TCS開設記念式典 (韓国・ソウル)
2012.05	TCSが第5回日中韓サミットに参加 (中国・北京)
2013.10	TCSが第16回ASEAN+3サミットに参加 (ブルネイ・バンダルスリブガワン)
2014.11	TCSが第17回ASEAN+3サミットに参加 (ミャンマー・ネピドー)
2015.11	TCSが第6回日中韓サミットに参加 (韓国・ソウル)
	TCSが第18回ASEAN+3サミットに参加 (マレーシア・クアラルンプール)
2016.09	TCS設立5周年記念レセプション (韓国・ソウル)
	TCSが第19回ASEAN+3サミットに参加 (ラオス・ビエンチャン)
2017.11	TCSが第20回ASEAN+3サミットに参加 (フィリピン・マニラ)
2018.05	TCSが第7回日中韓サミットに参加 (日本・東京)
2018.11	TCSが第21回ASEAN+3サミットに参加 (シンガポール)
2019.11	TCSが第22回ASEAN+3サミットに参加 (タイ・バンコク)

刊行によせて	1
日中韓三国協力事務局の紹介	2
目次	5
編集にあたって	6
日中韓地方都市トライアングル交流の事例概観	7
第1章	3都市・地域間の交流
	唐津市（日）・揚州市（中）・麗水市（韓）
	鳥取県（日）・吉林省（中）・江原道（韓）
	東京都（日）・北京市（中）・ソウル特別市（韓）
	北九州市（日）・大連市（中）・仁川広域市（韓）
	神奈川県（日）・遼寧省（中）・京畿道（韓）
	山口県（日）・山東省（中）・慶尚南道（韓）
	石川県（日）・江蘇省（中）・全羅北道（韓）
	佐渡市（日）・漢中市（中）・昌寧郡（韓）
	厚木市（日）・臨沂市（中）・軍浦市（韓）
	金沢市（日）・蘇州市（中）・全州市（韓）
	横浜市（日）・泉州市（中）・光州広域市（韓）
	東京都目黒区（日）・北京市東城区（中）・ソウル特別市中浪区（韓）
	新潟市（日）・青島市（中）・清州市（韓）
	奈良市（日）・寧波市（中）・済州特別自治道（韓）
	長崎県（日）・上海市（中）・釜山広域市（韓）
	長野県（日）・河北省（中）・江原道（韓）
	京都市（日）・長沙市（中）・大邱広域市（韓）
	金沢市（日）・ハルビン市（中）・釜山広域市（韓）
第2章	3国の地方都市交流メカニズムと行事
	東アジア文化都市
	日中韓3か国地方政府交流会議
	東アジア経済交流推進機構（OEAE）
	環黄海経済・技術交流会議
	東アジア地方政府3農フォーラム
	韓日中公務員3国協力ワークショップ

編集にあたって

- 本冊子のタイトルは、「調査レポート 日中韓地方都市トライアングル交流」ですが、市レベルだけでなく、県（日）・省（中）・道（韓）や区レベルの交流も含まれています。また、3国の複数の都市が関与しているメカニズムや、三国地方政府交流に関連した行事についても紹介しています。
- 本冊子に記された国名の順序は、日本語版においては日本の都市・地域を先頭とし、日中韓の順としています。中国語及び韓国語版においては、それぞれの国の都市・地域を先頭とし、2番目以降はその国で一般的に用いられている国名順としています。ただし、トライアングルの図の配置は、行事の開催順序、中心的役割の都市・地域の存在などを考慮に入れつつ、日中韓版共通の配列にしてあります。また、第1章内の各都市グループの掲載順序は、原則として、3都市としての交流開始年を参考としています。
- 姉妹都市や友好都市の呼称については、同一の都市同士の関係に対しても、片方の国では「姉妹都市」と呼び、相手国では「友好都市」と呼ぶ事例が多くあります。日本語版にあたっては、日韓及び日中の都市関係については、日本における表記のみ記載しました。一方、中国と韓国における都市関係において、「姉妹都市」「友好都市」と異なる呼称を用いている場合、日本語版においては、中立性を保つため、「姉妹／友好都市」と表記しています。
- 情報の分量、交流事業の規模や数によって、各都市グループにつき最大5ページまで用いています。
- 本調査レポートは、日中韓3国のメカニズムに限定しています。紙面の都合上、それ以外の国を含むメカニズムしかない場合については取り上げていません。また、過去に交流を行っていたが、現在継続していない日中韓交流都市については、本冊子の掲載対象外としています。
- 本調査レポートは、2019年9月1日時点の情報に基づいています。したがって、それ以降の行事は、予定情報となります。東アジア文化都市の各都市の交流事業については、同都市に指定された当該年においては、極めて多くの事業を実施しているため、スペースの関係上、当該年の翌年以降のフォローアップ交流事業に焦点を絞って掲載しています。
- 姉妹／友好都市を背景としつつも、民間団体や各機関（学校、図書館、博物館等）で独自に実施している事例も掲載してあります。
- 日中韓の地方都市交流事業については、これまでまとまった形のデータベースや資料がほとんどなかったため、本冊子に掲載された事例は、必ずしも現存するすべての事例を網羅したものではない可能性があります。これ以外の日中韓地方都市間交流のグループや事例についてご存じの場合は、下記宛にお知らせ頂ければ幸いです。

tcs@tcs-asia.org

日中韓地方都市トライアングル交流の事例概観

本冊子で紹介する18の都市間交流グループの事例を類型化すると、以下のとおりとなる。

1. どのような経緯で交流がなされているか。

- ① 主として姉妹都市・友好都市・交流協力協定等の締結に伴う交流：13組
 - ② 東アジア文化都市の縁に伴う交流：5組（2014～2018年）
- 今後も年間1組ずつ増加する

2. どのような分野の交流をしているか。

1事業が2分野の要素を有する場合や、1つの都市グループが複数の事業を行っている場合もあるため、合計の数字は都市グループ数と一致しない。相対的に、経済や環境などよりも、交流を通じた国民間の相互理解を重視したものが多く特徴である。なお、下記には含まれていないが、日中韓の複数都市間の交流メカニズムは、経済関連3、地方交流一般1（経済含む）であり、経済の比重が高い。

- ① 青少年交流：7組
- ② 文化交流：6組
- ③ 囲碁：3組
- ④ 経済に関連した交流：2組
- ⑤ スポーツ競技：2組
- ⑥ 博物館：2組
- ⑦ 図書館：1組
- ⑧ 環境：1組
- ⑨ トキを通じた交流：1組

3. 世代別

- ① 中学生：1組
- ② 高校生：3組
- ③ 高校生以下の混合：1組
- ④ 大学生、大学院生：3組
- ⑤ 社会人以上：14組
 - 文化人や競技者等が中心：8組
 - 公務員等実務者が中心：3組
 - 官民共同（企業や有識者がフォーラム等に参加）：3組

4. どのような規模の地方政府が交流しているか。

- ① 県省道単位：5組
- ② 市・郡単位：10組
- ③ 上記（1）と（2）の混合：2組
- ④ 区単位：1組

5. 交流の開始年はいつ頃か。

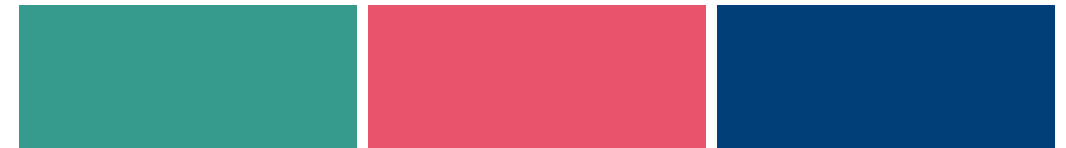
90年代末及び2015年以降の開始が多くみられる。初めての日中韓首脳会合も前者の時期（99年）に行われている。2015年以降の開始が多い理由は、東アジア文化都市として毎年1組ずつ増加している点と、比較的最近開始したため事業が継続している（終了していない）ことも理由として挙げられる。

- ① 1994年以前：1組
- ② 1995年～1999年：4組
- ③ 2000年～2004年：2組
- ④ 2005年～2009年：1組
- ⑤ 2010年～2014年：3組
- ⑥ 2015年～2019年：7組

6. 「持ち回り」か、毎回同じ都市での開催か。

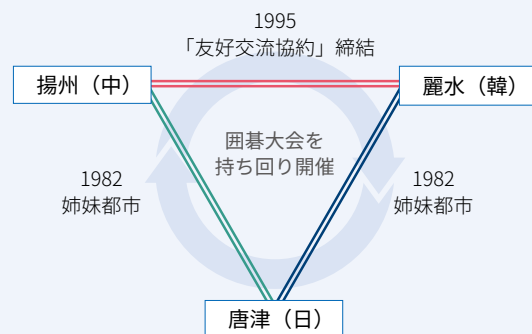
3都市・地域間が平等な貢献度で継続する交流事業は、東アジア文化都市フォローアップ事業を除き、大部分持ち回り開催となっている。東アジア文化都市フォローアップ事業の場合は、3都市それぞれが青少年交流や文化交流の事業のいずれか又は両方を毎年行い、それにパートナー都市等が参加する形になっており、今のところ例えば3年周期などの「持ち回り開催」の形態はみられない。

- ① 持ち回り開催：11組
- ② 毎回同じ都市：8組
 - うち、東アジア文化都市：5組
 - それ以外：3組



からつ 唐津市（日） ・ ようしゅう 揚州市（中） ・ ヨ ス 麗水市（韓）

四半世紀を超える三市交流、囲碁交流大会は2018年に20回目を開催



佐賀県唐津市（日本）、江蘇省揚州市（中国）、全羅南道麗水市（韓国）の交流は、唐津市が1982年2月に揚州市と友好都市、同年3月に麗水市と姉妹都市締結をしたことにさかのぼる。その後、1993年から三市市長会議が実施され、揚州市と麗水市も1995年に「友好交流協約」締結を行い、トライアングルの構図ができあがった。

この関係を土台として、1999年より三市による囲碁大会がスタートし、現在に至っている。現在まで継続している日中韓地方交流の中で、最も歴史が長い事例の一つである。なお、揚州市は2020年東アジア文化都市に選ばれた。

1999年～：3市による囲碁大会

「日中韓友好姉妹都市囲碁交流大会」は、囲碁大会を通じて、唐津市・揚州市・麗水市の三都市の文化交流を深め、市民間の理解と友好増進を図るものため、1999年から始まった。三市の持ち回りで年1回実施し、2018年には20回目の節目を迎えた。20年にわたり、1度も中断せず毎年実施されてきている点が注目される。



第20回の際の団体写真
(写真提供：麗水市)

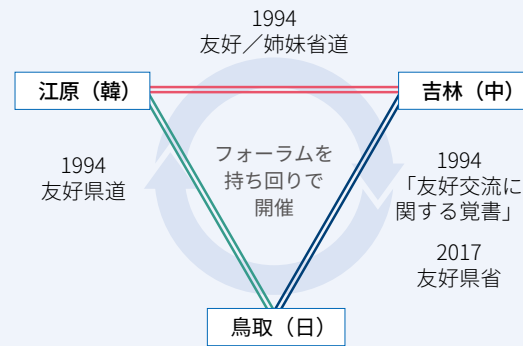
これまでの開催実績

	開催都市（国）	開催日
第1回	揚州市（中）	1999年7月5日（月）～11日（日）
第2回	麗水市（韓）	2000年5月3日（水）～6日（土）
第3回	唐津市（日）	2001年6月29日（金）～7月2日（月）
第4回	揚州市（中）	2002年11月15日（金）～19日（火）
第5回	麗水市（韓）	2003年10月16日（木）～20日（月）
第6回	唐津市（日）	2004年8月6日（金）～8日（日）
第7回	揚州市（中）	2005年6月26日（日）～29日（水）
第8回	麗水市（韓）	2006年10月25日（水）～28日（土）
第9回	唐津市（日）	2007年8月28日（火）～31日（金）
第10回	揚州市（中）	2008年10月17日（金）～20日（月）
第11回	麗水市（韓）	2009年9月17日（木）～19日（土）
第12回	唐津市（日）	2010年8月23日（月）～26日（木）
第13回	揚州市（中）	2011年10月21日（金）～24日（月）
第14回	麗水市（韓）	2012年10月18日（木）～20日（土）
第15回	唐津市（日）	2013年8月29日（木）～31日（土）
第16回	揚州市（中）	2014年10月16日（木）～19日（日）
第17回	麗水市（韓）	2015年11月29日（木）～31日（土）
第18回	唐津市（日）	2016年11月11日（金）～13日（日）
第19回	揚州市（中）	2017年11月6日（月）～9日（木）
第20回	麗水市（韓）	2018年11月15日（木）～17日（土）
第21回	唐津市（日）	（予定）2019年11月

(資料提供：唐津市)

とっとり 鳥取県 (日) ・ きつりん 吉林省 (中) ・ カンウォン ド 江原道 (韓)

3 県省道、経済を中心に周辺地域と積極的に交流



鳥取県（日本）、吉林省（中国）、江原道（韓国）の3県省道は、地域経済圏構想を背景に、周辺のロシア、モンゴル等とともに、1990年代から交流を深めている。

3県省道での交流は、吉林省及び江原道が1994年6月に友好/姉妹省道締結、鳥取県及び吉林省が1994年9月に「友好交流に関する覚書」（2017年に友好県省締結）、鳥取県と江原道が1994年11月に友好県・道締結を行ったことから始まる。

3県省道による定例行事として代表的なものは、2008年より持ち回りで実施されている「北東アジア産業協力フォーラム」で、近年は毎年実施となっている。

また、3県省道が主要メンバーとなる形で、それ以外の地域交流メカニズムを運営していることも特徴である。

「北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット」は1994年から、「東アジア地方政府観光フォーラム」は2000年から開始され、毎年会員国間で持ち回り実施されている。

2008年：「産業技術交流協力協定」締結、「北東アジア産業協力フォーラム」開始

2006年の地方政府サミットで、先端科学技術交流が必要との合意により、2008年に鳥取県商工労働部長、吉林省科学技術庁長、江原道経済産業局長の間で「産業技術交流協力協定」を締結し、これに基づき、3県省道の間で「北東アジア産業協力フォーラム」が持ち回りで開催されている。

開催実績

開催年	開催回	開催都市
2008年	第1回	江原道春川市
2011年	第2回	吉林省長春市
2012年	第3回	鳥取県米子市
2013年9月	第4回	江原道春川市
2015年9月	第5回	吉林省吉林市
2016年9月	第6回	鳥取県米子市
2017年9月	第7回	江原道平昌郡
2018年9月	第8回	吉林省長春市
2019年10月（予定）	第9回	鳥取県米子市



第8回フォーラムの様相
(写真提供：吉林省科技厅国際合作処)

2009年、2014年：友好交流周年事業

2009年には、吉林省長春市にて、同省の友好交流地域である鳥取県、島根県、江原道との友好交流15周年を祝賀するため、7月に「日中韓国際文化美食祭」、8月に「日中韓青少年卓球大会」が実施された。

また、2014年には、友好交流20周年を祝賀するため、それぞれ二国間の記念行事が行われたほか、日中韓では、同年8月に吉林省にて同省の友好交流地域である鳥取県、島根県、江原道の「日中韓友好交流20周年記念青少年文化体験事業」が実施された。

また、同年10月に鳥取県にて、交流の歴史を振り返る写真展が実施され、江原道では、3県省道及びカナダ・アルバータ州（江原道の友好都市、40周年）の同様の写真展及び児童美術展が実施された。

1994年～：「北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット」

1994年より、3県省道は、ロシアの沿海地方及びモンゴルの中央県とともに、各首長が一堂に会し、地域の共同発展や繁栄につき議論を持ち回りで実施している。

最近の開催実績

2017年10月	第22回（鳥取県倉吉市）
2018年10月	第23回（ロシア沿海地方ウラジオストク市）
2019年 7月	第24回（モンゴル中央県）

2000年～：東北アジア地方政府観光フォーラム（EATOF）

東アジア地域の共同繁栄と各地域間の緊密な交流を進め、各地域間の国際観光交流の促進を図るとともに、協力して世界各地からの観光客誘致を図ることを目的に、江原道の提唱により2000年に創設された。

加盟地域は、3県省道のほか、中央県（モンゴル）、ジョグジャカルタ特別州（インドネシア）、セブ島（フィリピン）、サラワク州（マレーシア）、クアンニン省（ベトナム）、シエムリアップ州（カンボジア）、ルアンパバン県（ラオス）の10か国10都市

最近の開催実績

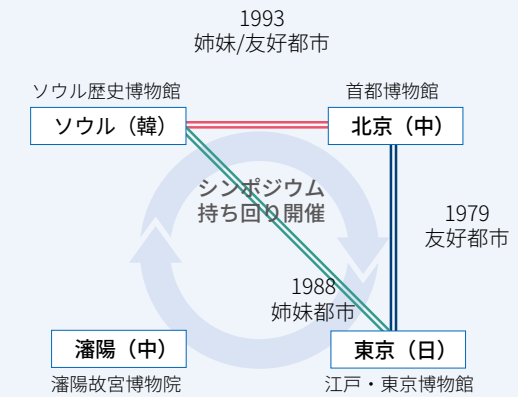
2018年8月	第16回（鳥取県）
---------	-----------

→ 2019年を「EATOFグローバル・キャンペーンの年」とし、東アジア観光世界化に向け、会員地方政府間の交流・連携した観光客誘致を実施する旨合意。

→ このオープニングイベントとして、2019年2月、江原道にて加盟地域の青少年間の交流プログラムである「グローバル・ユースリーダーGoGo平昌！」が実施された。

とうきょう 東京都（日）・ ぺきん 北京市（中）・ ソウル特別市（韓）

博物館交流、3首都の姉妹都市関係をベースに瀋陽加わり4博物館の交流に



東京－北京間は1979年、東京－ソウル間は1988年、北京－ソウル間は1993年にそれぞれ姉妹/友好都市締結がなされている。

1995年3月には「B E S E T O 協力に関する合意覚書」が3首長間で署名され、トライアングル体制が構築されたものの、この枠組みでの都市行政単位での協力は、諸般の事情により継続しておらず、美術祭や演劇祭など民間レベルでの交流が続けられている。

公共部門における協力は、3首都の博物館交流が続いている。2002年に設立されたソウル歴史博物館において、同年、3首都の博物館によるシンポジウムが行われ、その後、定例化されることになった。

その後、中国側の推薦により、瀋陽故宮博物院が2006年から加わり、4博物館の持ち回りでシンポジウムが行われることになった。

シンポジウムを通じた交流を10年以上にわたり継続してきたひとつの結実として、東京、北京、ソウルのうち2都市の博物館の間で相互に展示が行われる取組みがここ数年の間で増えてきているのが特徴である。

ミュージアムを通じた日中韓の都市間交流事例はまだ数が限られているが、他に北九州市（日）－大連市（中）－仁川広域市（韓）の博物館が巡回展示を行っている例がある。

2002年10月：日中韓シンポジウムがソウルで開催、定例化に合意

日中国交正常化40周年、中韓国交樹立10周年、ワールドカップ・サッカー大会が日韓共催で行われた2002年は、「日中韓国民交流年」に指定された。この年の10月25日、「第1回」日中韓博物館国際シンポジウムが、同年に開館したソウル歴史博物館の講堂で開催された。日本からは江戸・東京博物館が、中国からは、北京の首都博物館が参加した。

「21世紀における博物館の役割と発展方向」というテーマが掲げられ、3国の首都の歴史と文化を紹介することをコンセプトとする3館の館長及び現場の学芸員がそれぞれの活動を報告し合い、意見を交わす初めての試みとなった。この行事はもともと、定例化を念頭に置いた行事ではなかったが、行事に参加した各館の間で交流の意義と継続の必要性についての共通認識が得られ、翌年より輪番制で継続されることになった。

開催実績（～2006年）

2002年	ソウル	2005年	ソウル
2003年	北京	2006年	北京
2004年	東京		

2007年～：瀋陽故宮博物院もシンポジウムに参加し、4館の交流に

2007年、首都博物館の推薦により、瀋陽故宮博物院も持ち回りシンポジウムの一員になった。同年以降、3館交流から4館交流に拡大し、現在に至る。

2007年以降の開催実績

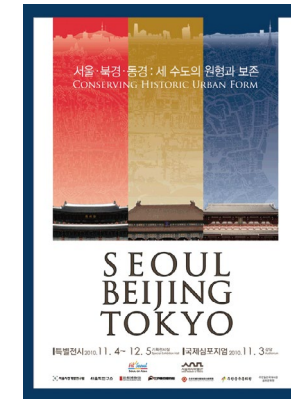
2007年	東京	2014年	北京
2008年	瀋陽	2015年	東京
2009年	ソウル	2016年	瀋陽
2010年	北京	2017年	ソウル
2011年	東京	2018年	北京
2012年	瀋陽	2019年	東京（予定）
2013年	ソウル		



2017年ソウルで実施されたシンポジウムの模様
(提供：ソウル歴史博物館)

2010年11月：ソウル歴史博物館で初の日中韓コラボ展示を開催

2010年11月4日から12月5日にかけて、「ソウル・北京・東京、3都の原型と保全」をテーマとした特別展示がソウル歴史博物館で行われた。11月3日には、同館講堂にて、日中韓3か国の首都の都市専門家が都市の原型と遺産の保全策を探るための国際シンポジウムが開催された。



当時のポスター
(画像提供：ソウル歴史博物館)

2013年/2015年：ソウル歴史博物館と首都博物館で共同企画展示

ソウルと北京の博物館が、2013年及び2015年にかけて、二つの展示会が企画展示された。2013年にソウル歴史博物館にて「北京3000年、受容と包容の旅路」が実施され、2015年には、首都博物館にて「水路都市、ソウル」が実施された。

2017年/2018年：江戸東京博物館と首都博物館で共同企画展示

2002年から続く江戸東京博物館と首都博物館の交流の成果として、両館が共同して企画・調査・研究を行い、交流展を行った。

まず、2017年2月18日から4月9日にかけて、特別展「江戸と北京－18世紀の都市と暮らし」を江戸東京博物館にて実施した。翌2018年8月14日から10月7日にかけて、「都市・暮らし－18世紀の東京と北京」を首都博物館で開催した。両展示会は、18世紀を中心にした江戸と北京のなりたちや、生活、文化を比較する点は共通しているが、来館者ニーズを考え、東京では北京の資料を、北京では東京の資料を多く展示した。

江戸東京博物館の広報資料によると、同館の収蔵資料が中国で展覧されるのはこれが初めてであり、入場者は50日間に27万8790人（1日平均5576人）と大盛況で、多数のメディアにも取り上げられた。また、展示期間中の8月15日に、第17回日中韓博物館シンポジウムが首都博物館にて実施された。



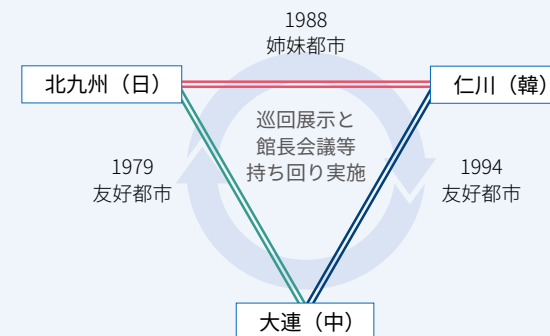
(写真：(上) 東京での展示会、(下) 北京での展示会 (ともに江戸・東京博物館提供))

2019年：江戸東京博物館とソウル歴史博物館で共同展示

江戸東京博物館は、2019年10月22日から12月1日にかけて、ソウル歴史博物館と初の共同展示「ユ・マンジュのハニャン」を実施する。1755年漢陽（ハニャン。現在のソウル）に生まれたユ・マンジュは、20才になった1775年から死没する直前の1788年まで、一日も欠かすことなく日記を書き続けた。ユ・マンジュの日記を通して、18世紀後半の漢陽の風景やそこに暮らす人々の日常生活を紹介するもので、ソウル歴史博物館にて2017年に展覧された。なお、展示期間中に第18回日中韓シンポジウムが江戸東京博物館にて実施予定。

北九州市 (日) ・ 大連市 (中) ・ 仁川広域市 (韓)

港湾都市による博物館交流、巡回展示で着実に成果を積み上げ



福岡県北九州市（日本）、遼寧省大連市（中国）、仁川広域市（韓国）の3市は、ともに港湾都市という共通点をもつ。

3市での交流は、北九州市及び大連市が1979年に友好都市締結、北九州市と仁川直轄市（当時）が88年に姉妹都市締結したことからはじまる。91年には日本の北九州市及び下関市と、その中韓の姉妹・友好都市4市（中国：大連、青島、韓国：釜山、仁川）からなる「東アジア都市会議」及び「東アジア経済人会議」が発足した（現在の「東アジア経済交流推進機構」の前身）。その後、94年に大連市及び仁川直轄市が友好都市締結を行い、日中韓のトライアングル姉妹・友好関係が成立した。

3市として現在継続している事業は博物館交流であり、「北九州市立自然史・歴史博物館（通称/以下：いのちのたび博物館）」、「大連市旅順博物館」及び「仁川広域市立博物館」は、2010年11月の合意書に基づき友好博物館交流を開始した。同年より、毎年持ち回りで館長会議及び事前の実務者会議を開始し、2011年の館長会議における合意に基づき、翌年より巡回展示を開始した。2014年の館長会議では、2期目の合意書を署名し、「東アジアの生活文化」をテーマとした隔年の巡回展の実施に合意し、現在も継続中である。

なお、仁川広域市は、2019年の東アジア文化都市として、東京都豊島区及び西安市とともに1年間、多彩な文化・交流活動を展開している。北九州市も2020年の東アジア文化都市に選定されている。また、3市が加盟する「東アジア経済交流推進機構」は、日中韓の11の大都市から構成される環黄海都市経済交流のプラットフォームとなっている。大連市は、2016年に北九州、仁川を含む日中韓の友好8都市を招いて卓球大会を実施したことがある。

2010年：3館交流開始、以降毎年持ち回りで実務者会議及び館長会議を実施

3館での交流は、2010年8月に実務者会議で準備調整が行われた後、同年11月に「第1回東アジア友好博物館館長会議」がそれぞれ北九州市で開かれ、その際、「東アジア友好博物館に関する合意書」が3館長により署名されたことにより開始した。両会議は、以後、それぞれの博物館で持ち回りで実施している。途中、両会議ともほぼ毎年実施され、今後の活動方針などについて話し合われている。



2018年第8回館長会議
(写真提供：仁川広域市立博物館)

これまでの開催実績

2010年（北九州）	実務者会議（8月）、第1回館長会議（11月） 館長会議にて「東アジア友好博物館に関する合意書」署名
2011年（仁川）	実務者会議（7月）、第2回館長会議（10月）
2012年（大連）	実務者会議（6月）
2013年（北九州）	実務者会議（8月）、第3回館長会議（12月）
2014年（仁川）	実務者会議（7月）、第4回館長会議（10月） 館長会議にて、2期目となる「合意書」に署名、隔年の巡回展に合意
2015年（大連）	実務者会議（7月）、第5回館長会議（10月）
2016年（北九州）	実務者会議（7月）、第6回館長会議（11月）
2017年（仁川）	実務者会議（6月）、第7回館長会議（10月）
2018年（大連）	実務者会議（4月）、第8回館長会議（9月）
2019年（北九州）	実務者会議（7月）、〔予定〕第9回館長会議（10月）

2012年：協力展示の第一弾「大連、都市の風景」を実施

大連の新旧の写真を対照して近代都市大連の歴史と現在の姿を示す展示。

2012年10月9日～11月4日	仁川広域市立博物館
2012年10月26日～11月25日	いのちのたび博物館

2013年：いのちのたび博物館で、「東アジア交流コーナー」設置

2013年3月、いのちのたび博物館は、リニューアル・オープンにともない、3都市博物館の交流を紹介する観点から、同博物館内に「東アジア交流コーナー」を常設の形で設置し、大連市及び仁川広域市の歴史と文化、両博物館の活動について、写真などの関係資料や所蔵品の複製等により紹介している。



(写真提供：いのちのたび博物館)

2013年～2014年：協力展示の第二弾「北九州—工業都市の風景」展を実施

鳥瞰図や炭鉱画の複製と写真により工業都市北九州の歴史と現在を紹介した。

2013年10月15日～11月10日	仁川広域市立博物館
2014年1月21日～2月16日	旅順博物館

2013年～2014年：北九州市制50周年、大連&仁川の名品展を実施

2013年12月21日～2014年2月11日 北九州の市制50周年を記念し、いのちのたび博物館にて「仁川広域市市立博物館・旅順博物館の名品展」が実施され、両館所蔵の青銅器・絵画・陶磁器などを精選展示し、両国の歴史と文化を紹介した。

2014～2015年：協力展示の第三弾「モダン仁川画」展を実施

さまざまな印刷物の挿絵資料によって、近代都市仁川がどのように表現され、伝達されたか、またそのイメージがどのように受容されたかを探る展示。

2014年12月4日～2015年1月4日	旅順博物館
2014年12月6日～2015年1月12日	いのちのたび博物館

2016年～2017年：「東アジアの生活文化」巡回展示の第一弾「着物」展を実施

2014年第4回館長会議において、「東アジアの生活文化（衣食住）」を統一テーマとした巡回展示を隔年・持ち回りで実施していくことで合意した。

シリーズ第一弾は、北九州担当の日本の衣類文化の特別展示が日⇒韓⇒中の各博物館にて巡回で実施された。

2016年11月12日～12月11日	いのちのたび博物館「着物が語る日本の心」展
2017年1月10日～2月5日	旅順博物館「布衣人生—日本近代平民服飾展」
2017年2月14日～3月19日	仁川広域市立博物館「着物が語る日本の情緒」展v



旅順における展示
(写真提供：いのちのたび博物館)

2018年～2019年：「東アジアの生活文化」巡回展の第二弾「箸」展を実施

旅順博物館の箸のコレクションをベースに、各博物館独自のアレンジを加えて特別展の巡回展示を行った。



仁川における展示
(写真提供：仁川広域市立博物館)

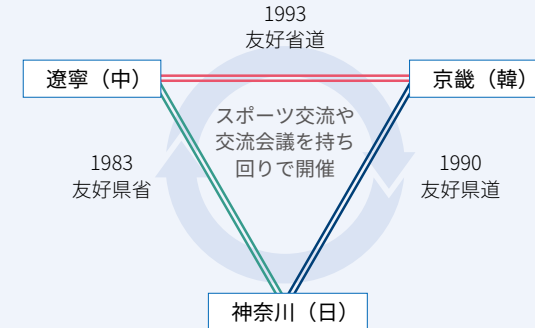
2018年5月18日～9月20日	旅順博物館
2018年10月20日～12月9日	いのちのたび博物館「箸と生活—中日韓箸文化展」を「食のたび—箸と和食の文化史—」展の一部として実施
2019年1月22日～2月24日	仁川広域市立博物館「偉大な道具『箸』」展

2020年～2021年：「東アジアの生活文化」巡回展の第三弾「彼女たちの空間、母屋」を実施予定

第三弾の「住」をテーマとした巡回展示は仁川担当で2020年より実施予定。

かながわ 神奈川県 (日) ・ りょうねい 遼寧省 (中) ・ キョンギド 京畿道 (韓)

青少年スポーツ交流、交流会議を中心に交流を23年間継続中



神奈川県（日本）、遼寧省（中国）、京畿道（韓国）の3県省道は、神奈川県が1983年5月に遼寧省と友好県省、90年4月に京畿道と友好県道締結、遼寧省と京畿道も93年10月に友好省道締結を行い、トライアングルの構図ができあがった。

この関係を土台として、96年より「友好県省道交流会議」がスタートし、共通課題の解決策や交流促進について定期的に行う一方、具体的な事業として、2004年から青少年スポーツ交流事業や学術フォーラムを開始した。前者は現在まで継続されており、参加者（毎回約150人）や競技種目（3種目）も拡充してきている。

他のトライアングル交流と比較すると、最も歴史が長いものの一つであり、かつ交流規模の面でも最も充実しているものとみることができる。

1996年～：「友好県省道交流会議」

3県省道は、1996年以来、「友好県省道交流会議」を行い、共通する課題の解決方法や文化交流等の促進について議論を行っている。下記スポーツ交流の規模、内容の拡充がなされる中、同交流会議のレベルは当初の首長レベルから幹部レベルへと簡素化がなされている。

これまでの開催実績

1996年8月（遼寧省）	第1回
1998年9月（京畿道）	第2回
2000年9月（神奈川県）	第3回
2002年10月（遼寧省）	第4回
2004年10月（京畿道）	第5回
2006年11月（神奈川県）	第6回

2008年10月（遼寧省）	第7回
2010年10月（京畿道）	第8回
2013年3月（神奈川県）	第9回
2014年8月（遼寧省）	第10回
2017年11月（京畿道）	第11回
2019年5月（神奈川県）	第12回



2019年会議における記念撮影
(写真提供：神奈川県)

2004年～：三県省道スポーツ交流事業

2002年の第4回「三県省道交流会議」において、スポーツ交流の推進に関する3者の合意がなされ、2004年から毎年、スポーツ交流事業が行われている。同事業は、3地域の青少年に国際交流の機会を提供し、相互理解を深めるとともに、国際性豊かな青少年の人材育成を図ることを目的としている。当初、男子サッカー1種目だった競技も、2007年には女子バスケットボールが追加され、2014年からは、男女卓球も追加され、参加者、競技種目を拡大して実施している。

神奈川県側実行委員会のまとめた2018年度事業報告書によると、参加した日本の高校生からは、①言葉は通じなかったがジェスチャーなどでコミュニケーションがとれた、②中国、韓国の選手たちがフレンドリーに接してくれた、理解や関心を高めるきっかけになった、③皆同じ高校生であり、スポーツに国境や言葉の壁はないと実感した、などの感想の声寄せられた。



閉幕式の模様
(写真提供：遼寧省)

これまでの開催実績（出典：神奈川県庁ホームページ）

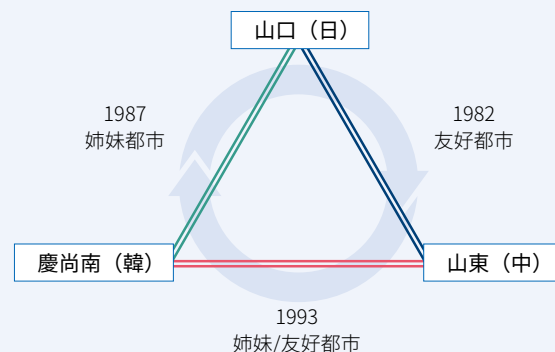
年度	日程	開催地	参加者	内容
2004年	8月23日から27日	京畿道	神奈川県選手団24名、遼寧省選手団21名、京畿道選手団20名	サッカー交流親善試合、学校訪問、交流事業等
2005年	8月25日から29日	遼寧省	神奈川県選手団24名、遼寧省選手団23名、京畿道選手団25名	サッカー交流親善試合、学校訪問、交流事業等
2006年	8月23日から27日	神奈川県	神奈川県選手団27名、京畿道選手団24名	サッカー交流親善試合、学校訪問、交流事業等
2007年	8月24日から28日	京畿道	神奈川県選手団42名、遼寧省選手団42名、京畿道選手団35名	サッカー（男子）・バスケットボール（女子）交流親善試合、学校訪問、交流事業等
2008年	8月25日から29日	遼寧省	神奈川県選手団42名、遼寧省選手団45名、京畿道選手団35名	サッカー（男子）・バスケットボール（女子）交流親善試合、学校訪問、交流事業等
2009年	8月24日から28日	神奈川県	神奈川県選手団39名、京畿道選手団38名	サッカー（男子）・バスケットボール（女子）交流親善試合、学校訪問、交流事業等
2010年	8月23日から27日	京畿道	神奈川県選手団42名、遼寧省選手団33名、京畿道選手団39名	サッカー（男子）・バスケットボール（女子）交流親善試合、交流事業等
2011年	8月22日から26日	遼寧省	神奈川県選手団40名、遼寧省選手団37名、京畿道選手団39名	サッカー（男子）・バスケットボール（女子）交流親善試合、交流事業等
2012年	8月27日から31日	神奈川県	神奈川県選手団37名、遼寧省選手団19名（女子バスケットボールのみ）、京畿道選手団39名	サッカー（男子）・バスケットボール（女子）交流親善試合、学校訪問、交流事業等
2013年	8月26日から30日	京畿道	神奈川県選手団41名、遼寧省選手団15名（女子バスケットボールのみ）、京畿道選手団49名	サッカー（男子）・バスケットボール（女子）交流親善試合、学校訪問、交流事業等
2014年	8月26日から30日	遼寧省	神奈川県選手団47名、遼寧省選手団48名、京畿道選手団45名（男子サッカー・女子バスケットボールのみ）	サッカー（男子）・バスケットボール（女子）・卓球（男女）交流親善試合、学校訪問、交流事業等
2015年	8月24日から28日	神奈川県	神奈川県選手団46名、遼寧省選手団51名、京畿道選手団54名	サッカー（男子）・バスケットボール（女子）・卓球（男女）交流親善試合、学校訪問、交流事業等
2016年	8月22日から26日	京畿道	神奈川県選手団50名、遼寧省選手団47名、京畿道選手団50名	サッカー（男子）・バスケットボール（女子）・卓球（男女）交流親善試合、交流事業等
2018年	8月20日から24日	遼寧省	神奈川県選手団49名、遼寧省選手団53名、京畿道選手団51名	サッカー（男子）・バスケットボール（女子）・卓球（男女）交流親善試合、交流事業等
2019年	8月19日から22日	神奈川県	神奈川県選手団45名、遼寧省選手団10名（男女卓球のみ）	卓球（男女）交流親善試合、学校訪問、交流事業等

2004年～08年：「三県省道学術フォーラム」

3県省道は、2004年から08年にかけて3回にわたり、新たな交流・協力事業の可能性についての専門的な立場から検討することを目的に「三県省道学術フォーラム」を実施した。

やまぐち さんとう キョンサンナムド
山口県（日）・ 山東省（中）・ 慶尚南道（韓）

1997年以降、文化・青少年の分野を中心に交流を継続



山口県（日本）、山東省（中国）、慶尚南道（韓国）の3地域は、ともに隣国への海の玄関口を有するという共通点をもつ。

3地域での交流の開始前、山口県と山東省が1982年8月に友好協定を締結、山口県と慶尚南道は87年6月に姉妹提携締結、山東省と慶尚南道は93年9月に姉妹/友好都市締結を行った。

97年、山口県－山東省15周年、山口県－慶尚南道10周年を契機に、三者による広域連携・施策連携を図るため、共同交流事業が開始された。以来、文化・青少年の分野を中心に交流を続けている。

大学単位での交流も行われている。山口県立大は山東省及び慶尚南道に位置する2大学と97年からトライアングル交流事業を開始し、2000年からは、2大学の学生を毎年夏に3週間招く形で交流事業を実施しており、現在まで継続している。

1997年の山口県・山東省友好協定15周年、山口県・慶尚南道姉妹提携10周年を契機に、三者による広域連携・施策連携を図るため、共同交流事業が開始された。以来、文化・青少年の分野を中心に交流を続けている。

開催実績

1997年11月	東アジア文化の集い（山口県開催） 第1回国際文化シンポジウム（山口県開催）
1998年 2月	国際環境シンポジウム（山口県開催）
1999年11月	第2回国際文化シンポジウム（山東省開催）
2001年10月	第3回国際文化シンポジウム（慶尚南道開催）
2007年10月	山口県・山東省25周年、山口県・慶尚南道20周年記念事業 山口県・山東省・慶尚南道トライアングルフォーラム〈国際交流・国際観光・自然環境〉（山口県開催） 三県省道高校生スポーツ交流（山口県開催）
2012年 7月	山口県・山東省30周年、山口県・慶尚南道25周年記念事業 伝統芸能フェスタ（山口県開催）
2014年 8月	3県省道青年卓球友好交流試合（山東省開催）
2017年 8月	山口県・山東省35周年、山口県・慶尚南道30周年記念事業 若さあふれる多文化伝統芸能フェスタ（山口県開催）
2018年 8月	三県省道書画交流（山東省開催）
2018年10月	山口ゆめ花博でのステージイベント（山口県開催）
2019年11月	馬山菊祭りでの伝統武道公演（慶尚南道開催）



2017年若さあふれる多文化伝統芸能フェスタ
 (写真提供：山口県)



2018年三県省道書画交流
 (写真提供：山東省)

1997年～：山口県立大学、山東省・慶尚南道の大学との交流事業を継続

山口県立大学は、曲阜師範大学（山東省）、慶南大学校（慶尚南道）と学術交流協定を締結し、2000年度から両大の学生が毎年夏期に来日している。同事業は、1997年から99年に実施された「3大学トライアングル交流事業」が前身であり、それが発展する形で2000年から行われているものである。

「グローバル学生交流事業」は、毎年6月末～7月の約3週間にわたり実施されている。学内外との交流を図りながら学生、さらには地域の国際化を目的としている。そのため、期間中の日程は、中韓からの学生達は日本語講義をベースに、ホームステイ、日本文化体験、学部学科交流、学生交流会など多岐にわたる活動を行っている。2019年は、6月22日から7月13日にかけて実施された。

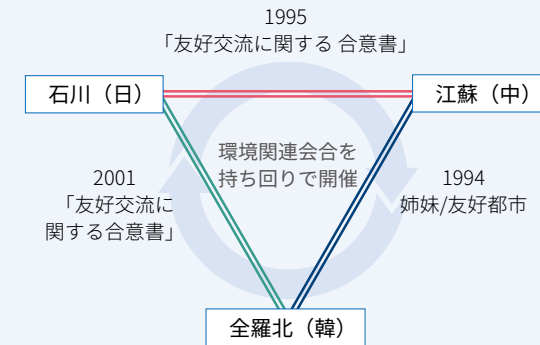
なお、山口県立大学の学生も、短期留学プログラムで曲阜師範大学及び慶南大学校にそれぞれ学生を送っている。前者は同県立大学の学生のみが対象であり、後者は日本、中国以外の提携校の学生も含まれている。



山口県立大学の各学部学科との交流の様子
(写真提供：山口県立大学)

いしかわ 石川県 (日) ・ こうそ 江蘇省 (中) ・ チョルラブクト 全羅北道 (韓)

環境協カトライアングル事業を継続



石川県（日本）、江蘇省（中国）、全羅北道（韓国）の3県省道は、環境面での実務者間の交流を継続している。

三県省道での交流は、江蘇省及び全羅北道が1994年10月に姉妹／友好都市締結、石川県及び江蘇省が95年11月に「友好交流に関する合意書」締結、石川県と全羅北道が2001年9月に「友好交流に関する合意書」締結を行ったことから始まる。

3県省道による定例行事としては、持ち回りで実施されている環境協カトライアングル事業が行われている。

2004年～：環境保全分野での交流事業

3地域は、各国に共通する重要課題である環境問題に関し、相互協力と認識の共有化を図るため、持ち回りで、環境保全分野の実務者による意見交換会等を実施している。2018年までに3地域の形では10回実施されている。

環境協カトライアングル事業：実施例

○日時

2018年10月29日(月)～11月1日(木)

○内容

意見交換会（テーマ「里山の利用・保全」）

施設等見学（いしかわ動物園、金沢市西部環境エネルギーセンターなど）

○参加者

日中韓の環境保全実務者（中韓からは3人ずつ出席）



2018年意見交換会の実施模様
(写真提供：石川県)

これまでの実績

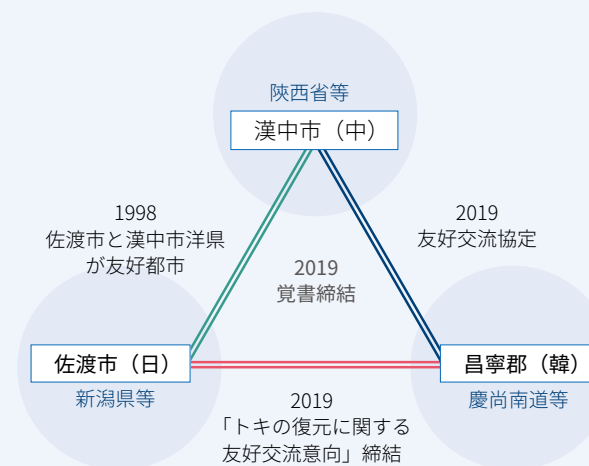
2003年度	石川県で開催（テーマ：環境教育）
2004年度	石川県で開催（テーマ：企業及び行政機関における環境配慮と環境教育）
2005年度	石川県で開催（テーマ：循環型社会の推進）
2006年度	江蘇省で開催（テーマ：水環境保全）
2007年度	全羅北道で開催（テーマ：地球温暖化対策）
2008年度	石川県で開催（テーマ：地球温暖化対策）
2009年度	江蘇省で開催（テーマ：生物多様性の保全）
2013年度*	石川県で開催（テーマ：地球温暖化対策）
2014年度*	全羅北道で開催（テーマ：生物多様性の保全）
2015年度*	石川県で開催（テーマ：資源循環政策）
2016年度	江蘇省で開催（テーマ：固体廃棄物の管理及び再資源化）
2017年度	全羅北道で開催（テーマ：PM2.5の総合対策について）
2018年度	石川県で開催（テーマ：里山の利用・保全）

*日韓2地域により開催

出典：石川県庁。上記各「年度」は日本の会計年度（4月1日～3月31日）

さど 佐渡市（日） ・ かんちゅう 漢中市（中） ・ チャンニョン 昌寧郡（韓）

トキを通じた3市・郡の交流、本格化に向けて覚書を締結



新潟県佐渡市（日本）、陝西省漢中市（中国）、慶尚南道昌寧郡（韓国）の3市・郡は、トキの生息地として、県省道を含め、交流を深めている。

かつて、トキは日中韓等で広く生息していたが、乱獲等により絶滅の危機に瀕していた。実際、韓国では1979年に非武装地帯で最後に目撃されたのを最後に、絶滅したとみられており、日本でも2003年に日本生まれのトキは絶滅した。一方、中国では絶滅したとみられていたトキが1981年に発見され、増殖に成功した。国レベルの友好の証として、99年に中国から日本にトキのつがいが増呈され、2008年には韓国に贈呈され、それぞれ増殖に成功した。

以降、3国協力として、2012年から野生復帰や生息地管理等に関する国際会議が行われたり、2都市間での協力が進んだ。

2019年7月に行われた「トキ国際フォーラム」においては、3市・郡間で交流強化のための覚書が締結され、地方レベルのトライアングル交流の強化が本格化することとなった。



(写真：2019年7月の覚書署名式。左から日中韓三国協力事務局長、昌寧郡守、漢中市副市长、佐渡市長。同事務局撮影)

1999年、2008年：中国より日本、韓国へトキ寄贈

日本は、1985年より中国からトキを借り受ける等により日本のトキとのペアリングを試みたが成功していなかった。98年11月、江沢民国家主席が国賓として訪日をした際に天皇陛下にトキのつがいの贈呈を表明、99年1月に佐渡に到着し、その後増殖に成功した。韓国は、2008年5月に李明博大統領が国賓として訪中した際に胡錦涛国家主席より同大統領にトキのつがいの贈呈を表明し、同年11月に韓国・昌寧郡に到着、増殖に成功した。

2012年～：トキ保護増殖事業のための日中韓の情報共有

日中韓3か国において、トキの保護増殖事業に携わっている各国の関係者が集い、トキの保護の現状などを報告するとともに、情報の共有を図るために実施するため、国際会議やシンポジウムを行っている。最近の事例として、2014年11月に中国、16年12月に日本、19年5月に韓国にて実施されている。

2018年：中国でトキ国際フォーラム開催、トキを通じた協力多角化へ

2018年5月、陝西省漢中市洋県にて、日中韓のトキに携わる関係者らが各地の取り組みを紹介する初の「トキ国際フォーラム」が実施された。同フォーラムは、トキの保護に関する協力にとどまらず、トキを「媒介」として産業、観光、文化交流等幅広い交流を旨とするために企画されたものである。

2019年5月：3か国の来賓が見守るなか、韓国で初の野生放鳥に成功

2019年5月22日、韓国における唯一のトキ生息地である慶尚南道昌寧郡において、長年の念願であった野生放鳥が実現した。放鳥式には日本・中国の来賓が出席した。出席した佐渡副市長と昌寧郡守との間で、「トキの復元に関する友好交流意向」を締結した。また、翌23日、同郡にて、トキの増殖や野生復帰のための日中韓シンポジウムが実施された。

2019年7月：ソウルで日中韓フォーラム開催、3市・郡等が覚書を締結

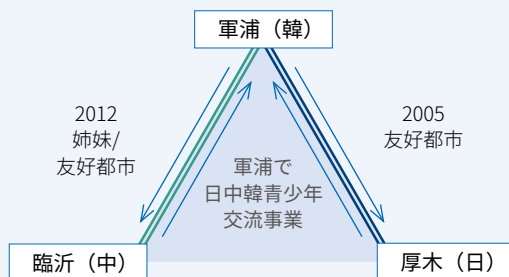
2019年7月11日、韓国ソウルにて、日中韓三国協力事務局主催、中国・トキ国際フォーラム事務局共催で「トキ国際フォーラム2019inソウル」が開催された。2019年は、韓国で初の野生放鳥に成功した記念すべき年であり、初の日中韓首脳会合が行われて20周年でもあることから、日中韓三国協力事務局が所在する韓国ソウルで実施する運びとなった。同フォーラムにおいては、三浦基裕佐渡市長、張建国漢中市副市长、韓理宇(한·리·우)昌寧郡守及び李鍾憲(이·종·헌)日中韓三国協力事務局事務局長による覚書が締結され、今後、トキに関連した行事を実施していくこと等、トキを媒介にした文化、観光、青少年交流など様々な交流を実施していくことにつき合意された。各セッションでは、トキを通じた地方交流や観光の活性化について議論がなされた。また、本フォーラムに併せて日中韓のトキ生息地の子ども交流プログラムが実施され、同フォーラムの午後のセッションに先立ち、3か国の子どもたちによる公演が行われた。



ソウルのフォーラムで韓国のトキの童謡を歌う日中韓の子どもたち
(写真：日中韓三国協力事務局)

あつぎ りんぎ ゲンボ
厚木市（日）・臨沂市（中）・軍浦市（韓）

軍浦市が中心となり、2010年より3都市青少年交流事業を継続中



京畿道軍浦市（韓国）は、同市が主導する形で、2010年より神奈川県厚木市（日本）及び山東省臨沂市（中国）と3都市間青少年交流事業を開始し、現在まで継続している。2010年の開始時点で、軍浦市は、厚木市と友好都市（2005年締結）、臨沂市とは2008年より交流関係にあった（その後、2012年に姉妹/友好都市関係締結）。

軍浦市は、厚木市及び臨沂市との間で、青少年の派遣と招聘を毎年1回ずつ実施しており、軍浦から派遣する際は、2都市間での交流事業となっているが、招聘する際は、同時期に両都市から青少年を招聘することにより、3都市による「国際青少年フェスティバル」と題する日中韓青少年交流事業を成立させている。

日中韓3都市間で姉妹・友好締結が成立していない場合にも、日中韓交流の実施が可能であることを示す好事例と言える。

2010年～：軍浦市主催で「国際青少年フェスティバル」実施

2010年7月23日～29日、軍浦市の主催により厚木市・軍浦市・臨沂市の3都市から青少年が集まり、第1回の「国際青少年フェスティバル」が実施された。第1回以来現在に至るまで、プログラムの大枠は、①軍浦の参加学生自宅で日中のパートナー学生がホームステイ（近年は3泊）、②全体合宿を通じた交流（近年は1泊）、③市長等への表敬、④文化体験及び見学等で構成されている。軍浦で募集される学生（中高生）は、日本語関心者と中国語関心者別に募集がかけられ、同フェスティバル実施後、答礼として、厚木市（近年は翌年1月）又は臨沂市（近年は8月）を数日間訪問することも定例化している。

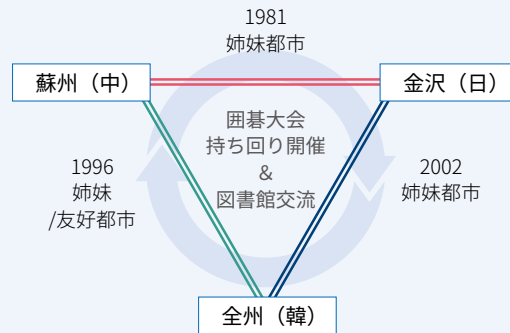
最近の開催実績

2017年7月	日中韓参加
2018年7月	日中韓参加
2019年7月	日韓参加



2018年実施時の団体写真
 (写真提供：軍浦市)

囲碁と図書館を通じたトライアングル交流



石川県金沢市（日本）、江蘇省蘇州市（中国）、全羅北道全州市（韓国）の3市は、2010年から囲碁交流を、2015年以降3図書館としての交流をそれぞれ開始した。

三市での交流は、金沢市及び蘇州市が1981年に姉妹都市締結、蘇州市と全州市が96年に姉妹都市締結、金沢市及び全州市が2002年に姉妹都市締結を行ったことから始まる。

姉妹都市関係をベースとして、2013年から15年にかけて、「金沢海みらい図書館」、「蘇州図書館」及び全州市「完山図書館」は、2館間で友好協力に関するMOUをそれぞれ締結し、3館間による三角形の協力構図も完成した。

なお、金沢市は2018年に「東アジア文化都市」として、中国のハルビン市及び韓国の釜山広域市とともに、1年間にわたり多彩な文化交流活動を展開した。

また、金沢、蘇州、全州の3市は、ユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市という共通点がある。金沢市及び蘇州市はクラフト&フォークアート、全州市は食文化の分野で加盟認定されている。

2010年～：囲碁交流、蘇州で実施、4回目以降は隔年に

囲碁の交流は、2009年に金沢市が提案し、2010年に蘇州で第1回を開催、以後持ち回りで実施している。第1回から第3回までは毎年実施し、第4回から隔年実施となった。金沢市側は民間団体（金沢国際囲碁協会）が主催で実施している一方、蘇州市及び全州市は行政が主催者となっている。

これまでの開催実績

2010年	第1回	蘇州	2014年	第4回	蘇州
2011年	第2回	金沢	2016年	第5回	金沢
2012年	第3回	全州	2018年	第6回	全州

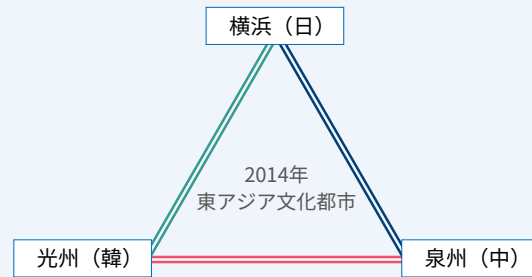
2013年～：3市図書館が交流協力のMOUを締結し、3館単位での交流活動を実施

姉妹都市関係を背景として、2013年12月、「金沢海みらい図書館」と「蘇州図書館」は、友好交流協力に関するMOUを締結した。翌2014年9月には「蘇州図書館」と全州「完山図書館」が、2015年10月には「金沢海みらい図書館」と「完山図書館」もそれぞれMOUを締結し、3図書館間で、三角形の協力構図が完成した。

その後の三館としての主な交流事業としては、以下のものが挙げられる。以下は、「金沢海みらい図書館」の取組み事例

(1) 2016年 10月6日～25日	提携2図書館の協力のもと、蘇州市及び全州市を紹介する文化紹介展示事業を実施。期間中には、子どもを本好きにするための関連企画「日本・中国・韓国にみる家庭でできる子どもの読書推進」を実施した。
(2) 2018年 10月11日～30日	提携2図書館の協力のもと、「金沢市図書館と姉妹都市図書館 交流のあゆみ」：蘇州市及び全州市の概要、文化・伝統工芸、各市図書館、「日本・中国・韓国 子ども童話交流事業」について、パネルや工芸品、関連図書等の展示を通して紹介。期間中には、「絵本と歌でつなぐ三都物語 ～金沢・蘇州・全州～」と題する絵本づくりのワークショップや音楽会が行われた。

「東アジア文化都市2014」3都市、以降も活発に交流を継続中



神奈川県横浜市（日本）、福建省泉州市（中国）、光州広域市（韓国）の3都市は、2014年の1年間、初代「東アジア文化都市」として多彩な交流事業を展開した。

同年11月、3市の市長等は「東アジア文化都市 友好協力都市協定」に署名した。同協定は、都市間交流の経験や、培った友好関係を一過性のものとせず、今後も3都市間の文化・芸術・観光分野での交流を継続し、共に発展することを目的に締結された。同協定は、以下を内容としている。

1. 相互主義の原則に従った交流と友好の促進。
2. 文化・芸術団体、企業、市民など民間レベルの交流活性化に向け努力。
3. 東アジア文化都市発展のため互いの経験を共有し、協力して事業を推進するよう努力。
4. 3都市の代表と関係部署が緊密な関係を維持し、交流、協力業務、共通関心事項につき協議。

同協定に基づき、3都市は、2015年以降も活発に交流を継続している。メインの取組みとして、それぞれの都市で年間1回ずつ他の2都市の代表団を招聘する形で文化交流や青少年交流を実施している。各都市で実施する大型文化行事に芸術団が参加するケースが多い。

2014年11月：「東アジア文化都市友好協力都市協定」締結、交流継続へ

2014年から始まった「東アジア文化都市」の初代開催都市として、横浜市、泉州市、光州広域市は、多彩な文化芸術イベントを通じて1年間活発に交流を行った。同年11月の横浜クロージング式典のタイミングに合わせ、同月18日、3都市間で「東アジア文化都市 友好協力都市協定」を締結、今後も文化芸術を通じた交流を継続していくことを確認し合った。



左から泉州市副市長、横浜市長、光州広域市長
(写真提供：横浜市)

2015年の主な交流活動

○メイン事業

横浜	8月、「横浜ダンスパレード」に泉州、光州の芸術団が参加
泉州	11月、「第14回アジア芸術祭」に横浜、光州の芸術団が参加
光州	10月、「思い出の7080忠壮祭り」に横浜、泉州の芸術団が参加

○その他事業事例

横浜	11月、光州広域市と国際女性美術交流協会（韓国）からの呼びかけにより、横浜のBankART Studio NYK（横浜の「創造界限拠点」の一つ）にて、国際女性現代アート・フォーラム及び美術展を実施。
光州	11月～12月、光州市立美術館にて、BankART 1929の活動を紹介する展覧会を実施。

2016年の主な交流活動

○メイン事業

光州	6月、「国立アジア文化殿堂 フリンジフェスティバル」に横浜、泉州の芸術団が参加
横浜	9月、「横浜音祭り2016」に泉州、光州の芸術団が参加するとともに、学校訪問も実施。
泉州	10月、「海上シルクロードフェスティバル 国際演劇展」に横浜、光州の芸術団が参加



横浜の行事における光州の公演
(写真提供：横浜市)

○その他事業事例

横浜／光州	「黄金町×光州AIR交換プログラム2016」。横浜と光州のアーティストを派遣し合うプログラムを実施。
光州	7月、「東アジア文化都市 建築フォーラム」に横浜市が参加。

2017年の主な交流活動

○メイン事業

光州	6月、「光州アジア文化殿堂 インターナショナルフリンジフェスティバル」に横浜、泉州の芸術団が参加
横浜	8月、横浜市・泉州市・光州広域市青少年文化交流を実施。各都市の高校生が横浜に集まり、「ヨコハマトリエンナーレ2017」鑑賞や、日本文化体験等を通じて交流。
泉州	12月、「第3回海上シルクロード国際芸術祭」に横浜、光州の芸術団が参加



泉州のイベントにおける横浜の公演団
(写真提供：横浜市)

○その他事業事例

光州	11月、「東アジア文化都市ネットワークフォーラム」に横浜、泉州を含む歴代「東アジア文化都市」及び学会専門家が参加。
----	---

2018年の主な交流活動

○メイン事業

光州	7月、「2019光州世界水泳選手権大会大国民ハンマダン」に横浜、泉州の芸術団が参加
横浜	9月、泉州、光州の芸術団が「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018」等のイベント出演及び学校訪問
泉州	11月、「東アジア文化都市・中日韓美術作品展」を実施。期間中に横浜、光州から派遣されたアーティストが現地で制作活動を行う等交流を深めた。



横浜のイベントにおける中国公演団
(写真提供：横浜市)

○その他事業

横浜／光州	1月～3月「黄金町×光州AIR交換プログラム2017」。横浜と光州のアーティストを派遣し合うプログラムを実施。11月～2019年2月に同プログラム2018を実施。(注：年は日本の予算年度にもとづく)
泉州	2月～3月「黄金町×泉州 アートのまちづくりプログラム」。泉州海外交通史博物館にて、横浜の初黄・日ノ出町地区における「アートによるまちづくり」の取組みの資料展示及びトークイベントを実施。
光州	9月「東アジア文化都市ネットワーク・メディアフォーラム」に横浜、泉州を含む歴代「東アジア文化都市」に拠点を有するマスコミが参加。

2019年の主な交流活動

○メイン事業

光州	7月13日～14日「2019光州世界水泳選手権大会」祝賀公演に横浜、泉州、済州(2016年文化都市)の芸術団が参加
(予定) 横浜	9月末「横浜音祭り2019」に横浜、泉州、済州の芸術団が参加
(予定) 泉州	11月下旬「海上シルクロード国際芸術祭」に横浜、光州、済州の芸術団が参加



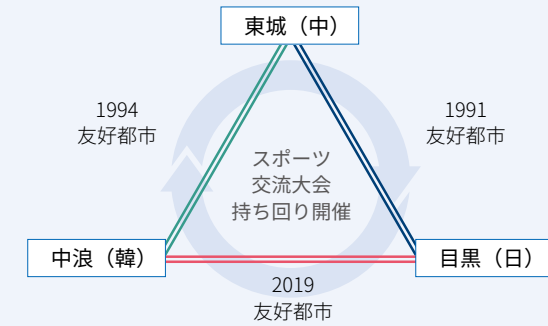
光州の行事に参加した泉州、横浜公演団のパフォーマンス
 (写真提供：(社) アジア文化センター都市造成支援フォーラム)

○その他事業

横浜	1月19日～26日「黄金町×泉州 アートのまちづくりプログラム2018」。泉州よりアーティスト等を招聘し、資料展示及びトークイベントを実施。
横浜／光州	7月～9月「黄金町×光州AIR交換プログラム2019」。横浜と光州のアーティストを派遣し合うプログラムを実施。
(予定)光州	10月18日「2019アジア文化フォーラム」にて東アジア文化都市特別セッションを実施。

めぐろ とうじょう チュンナン
 東京都目黒区 (日)・北京市東城区 (中)・ソウル特別市中浪区 (韓)

前例のない「区」同士のトライアングル交流



東京都目黒区（日本）、北京市東城区（中国）、ソウル特別市中浪区（韓国）の3区は、2017年からスポーツ交流事業を開始した。「区」同士のトライアングル交流は、これまで前例がみられず、また、姉妹都市や友好都市関係のトライアングルが完全に形成される前の時点でこのような交流が開始している点も注目に値する。

三区の交流は、目黒区及び中浪区が、90年代からそれぞれ北京市東城区と姉妹・友好都市関係であったことに由来する。この縁で、目黒区及び中浪区は、2010年に交流を開始し、2013年には「友好増進及び交流協力覚書」が締結された。

三区による中学生スポーツ交流は、2015年に提案がなされ、翌2016年に実施合意、2017年度から開始となった。その後、目黒区と中浪区の姉妹締結に向けた調整も本格化し、2019年7月に友好都市締結が実現した。

また、今後は、教育・文化・芸術面でも交流ができないかとの意見も出ており、今後の交流のさらなる広がりが期待されている。



2019年大会の試合の様子
(写真提供：中浪区)

2016年7月：「三区間協議」にて、子どものスポーツ交流実施を合意

2016年7月、東城区長の招聘にもとづき、三区間の交流事業の実現と、継続した友好交流関係を築くため、目黒区及び中浪区の代表団が訪中し、三区の実務者による三区間協議を実施した。この協議の結果、①2017年度に次代を担う子どもたちによるスポーツ交流を行うこと、②今回の実施場所は東城区にすること、③対象は中学校2学年の男子生徒とすることなど、今後の交流事業実施の大枠について合意し、詳細について今後実務者レベルで協議していくこととなった。

実務関係者によると、まずは男子生徒で開始することとなった理由は、各国・各区によってクラブ活動や競技者層にばらつきがあり、まずは実施が可能なものから開始することになったものとの由。

2017年7月：第1回「三区間スポーツ交流事業」が東城区で開催

2017年7月25日から29日にかけて、第1回の三区間スポーツ交流事業が実施された。主な日程は下記のとおり。

7月25日(火)	目黒区、中浪区一行、北京着 歓迎晩さん会
7月26日(水)	三区間バスケットボール大会開会式 第一試合(東城区対中浪区) 第二試合(目黒区対東城区)
7月27日(木)	第三試合(目黒区対中浪区) 三区間バスケットボール大会閉会式 中国伝統文化体験(うちわづくり、お面の絵付け、北京市第五中学校訪問) 東城区内見学(南鑼鼓巷) 送別晩餐会(東城区人民代表大会主任主催)
7月28日(金)	三区の学生が共に北京市内を視察(故宮他)
7月29日(土)	北京発

目黒区作成の事業報告書は、本件事業の成果として、目黒区から参加した区立中学第2学年12名の生徒にとって、バスケットボールという共通のルールに基づいたスポーツを通じて、三国の歴史

や文化、言葉や考え方の違いなどを超えて、互いを理解し交流を深めることで、国際人として未来に羽ばたいていくための貴重な経験となった旨総括している。各生徒の感想文をみると、①相手国に対するイメージが改善した、②中国、韓国に対する興味をもつようになったとの意見がみられた。印象的なエピソードとしては、試合中に日本人選手が中国人選手に押されて転倒したところ、そのファウルをした選手が立ち上がる手助けをしてくれたことに、国が違っても、日本人と同じような優しさを感じられ、嬉しく感じたというものがあり、複数の生徒が紹介をしていた。

言語面では、①言葉が通じなくてもプレーを通じて友達になれることに気づいた、②晩餐会では片言の英語とジェスチャーを通じて交流ができた、③英語や他国の言語を学ぶことが大切だと感じた、などといった意見がみられた。

2018年7月：第2回「三区間スポーツ交流事業」が目黒区で開催

2018年7月24日から27日にかけて、二回目の三区間スポーツ交流事業が目黒区で実施された。前年同様、中学第二学年男子生徒によるバスケットボール試合が行われた。女子生徒による試合は、東城区及び中浪区が選手団を送れなかったため、今後の実現を目指し、今回は目黒区女子選抜チーム同士による試合が行われた。

参加した生徒からは、「大好きなバスケット交流できるというのはすごい光栄なこと」(目黒区選抜チーム・キャプテン)、「言葉の交流ではなくスポーツでの技術交流ができ、日本選手からいいところを学ぶことができた」(東城区チーム・キャプテン)、「歓迎会で(日本と中国の)友達が増えた。今後も付き合いを続けていきたい」(中浪区チーム・キャプテン)などの所感があった。

[Column] 言葉が通じない学生たちが交流するために

3か国の中学生たちは、お互い言葉も通じず、国際交流の経験もない者も多く、最初はなかなかお互いに打ち解けることができない。この問題を解決するために、主催者は、ゲームを通じた「アイス・ブレイキング」に成功した。

そのゲームは、全試合終了後に行われた。大好きなバスケットボールを通じて、選手たちがより交流を深めることができる取組みとして、国の枠を超えて、混成チームを6チームづくり、フリースローによる交流ゲームを行ったのだ。チームごとに話し合い、「投げ役」と「拾い役」に分かれて、1分間に何ゴール入るかを競い合った。言葉は通じなくともジェスチャーで意思を伝え、バスケットボールのゲームを通してお互いの距離が縮まり、この後のグループでの交流活動をスムーズにするきっかけをつくることができた。フリースローの結果は、この日の夕食時に発表し、同点一等が出たため、三国共通の「じゃんけん」を通じて決着をつけるなど、大いに盛り上がった由。

食事の席も、3国の中学生たちが固まらないように工夫し、最初はコミュニケーションがでず困っていた者たちも、通訳の手を借りたり、片言の英語で頑張ったり、ジェスチャーを使ったりして次第に打ち解けていくことができた。携帯電話にあらかじめ自動翻訳機のアプリを入れておき、意思疎通を楽しむ者もいる等、今の時代ならではの工夫をした者もいたという。

2019年7月：第3回「三区間スポーツ交流事業」が中浪区で開催、目黒区と中浪区が友好都市協定を締結

三回目の三区間スポーツ交流事業は、2019年7月23日から26日にかけて、ソウル市中浪区で実施され、中学生男子生徒によるバスケットボール試合が行われた。

参加した生徒達は、試合のみならず、中浪区に所在する「龍馬滝公園」を訪れ、東アジア最大規模の人工滝を見学し、クライミング体験という毛色の異なる経験を共に行うことにより、楽しいひとときを過ごした。また、「中浪体験の森」でジップライン体験、「オンギ（味噌甕）テーマ公園」で韓紙工芸、木工芸体験等の文化体験を一緒にを行い、後々まで記憶に残る良い思い出づくりの機会となった。

25日には、3区の代表団が集まり、次回の交流種目選定のための協議を行い、その結果、女子生徒も参加できるバドミントンに決定した。また、2020年の交流場所と時期についても協議を行い、来年は北京市東城区で開催することとなった。同開催に向け、来年上半期に東城区で3区による実務会議が行われる予定である。

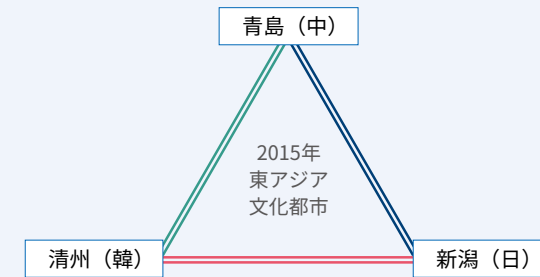
26日には、青木英二目黒区長と柳晁基（リュウ・ギョンギ）中浪区庁長との間で友好都市協定の締結が行われた。これをもって、目黒区、中浪区、東城区の三区が姉妹／友好都市のトライアングルとなった。



目黒区－中浪区の友好都市提携式
(写真提供：中浪区庁)

にいがた 新潟市（日） ・ ちんたお 青島市（中） ・ チョンジュ 清州市（韓）

「2015東アジア文化都市」3都市、青少年+文化の交流を継続中



新潟県新潟市（日本）、山東省青島市（中国）、忠清北道清州市（韓国）の3都市は、2015年の1年間、「東アジア文化都市」として多彩な交流事業を展開した。

2015年の閉幕にあたり、3都市は共同宣言を採択して継続的な友好・交流を促進していくことが合意され、2016年以降も青少年交流事業及び文化交流事業の形で交流活動を継続している。

両事業とも、2017年及び18年には事情により青島による事業実施・参加はなかったが、2019年から再び実施・参加が行われている。文化事業を行っている新潟市及び清州市共に、それぞれが実施するフェスティバル行事に相手国の芸能団を招き、同行事に国際的な彩を添え、相互理解の一助となっている。

青少年交流事業

○2016年

新潟市実施	7月26日～28日	3市から各15人の青少年が参加
清州市実施	7月30日～8月2日	3市から各15人の青少年が参加
青島市実施	8月10日～13日	3市から各15人の青少年が参加

○2017年

新潟市実施	7月25日～28日	新潟市及び清州市から青少年各15人が参加
清州市実施	7月30日～8月1日	新潟市及び清州市から青少年各15人が参加

○2018年

新潟市実施	7月28日～7月31日	新潟市及び清州市から青少年各15人が参加
清州市実施	8月1日～4日	新潟市及び清州市から青少年各15人が参加



新潟での交流活動の様子
(写真提供：新潟市)

○2019年

新潟市実施	7月27日～30日 新潟市及び青島市の青少年が参加。農業やマンガ・アニメなど新潟市の文化体験を通じた交流
清州市実施	8月1日～5日 3市の青少年が参加。伝統楽器体験、文化施設見学等を通じた交流
青島市実施	8月11日～15日 青島市及び清州市の青少年が参加。伝統工芸体験、文化施設見学等を通じた交流

文化交流事業

○2016年

新潟市実施	「新潟まつり」に合わせて8月4日～8日にかけて、青島市、清州市から伝統芸能団等を招待。
清州市実施	「2017年箸フェスティバル」に合わせて11月9日～12日にかけて、新潟市から太鼓演奏グループ等を招待。

○2017年

新潟市実施	「新潟まつり」に合わせて8月4日～7日にかけて、清州市及び済州特別道（韓国、2016年東アジア文化都市）から伝統芸能団等を招いた。
清州市実施	11月10日～19日 に実施された「2017年箸フェスティバル」に新潟市から太鼓演奏グループ等を派遣（11月9日～12日）

○2018年

新潟市実施	「新潟まつり」に合わせて8月10日～13日に清州市から伝統芸能団等、済州特別自治道からK-POPダンスグループを招いて公演等を実施。
清州市実施	9月8日～16日に実施された「2018年箸フェスティバル」に新潟市から太鼓演奏グループ等を招いた（9月7日～10日）。

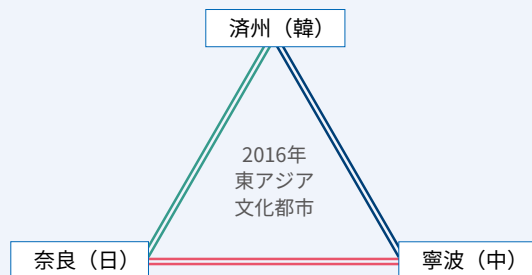


「新潟まつり」に参加する清州の伝統芸能団
(写真提供：新潟市)

○2019年（一部は予定）

新潟市実施	「新潟まつり」に合わせて8月10日～11日に青島市から伝統芸能団等を招いて公演を実施。
清州市実施 (予定)	9月20日～22日に実施される「2019年箸フェスティバル」に新潟市及び青島市から伝統芸能団等を招いて公演を実施。
青島市実施 (予定)	10月下旬に同市で開催される文化行事に新潟市及び清州市から公演団を招いて公演を実施。

「東アジア文化都市2016」3都市、青少年・文化交流を継続中



奈良県奈良市（日本）、浙江省寧波市（中国）、濟州特別自治道（韓国）の3都市は、2016年の1年間、「東アジア文化都市」として多彩な交流事業を展開した。閉幕にあたり、3都市は共同宣言を採択し、今後の文化交流の継続について約束した。これを受けて、現在、3都市は、それぞれの地で青少年交流事業を実施し、そこにパートナーの都市が参加する形態で交流行事を実施している。

特に奈良及び濟州においては、①数か月のプログラムを設け、地元の参加学生に対して事前学習や事後報告プログラムを別途設けることによって、国際人材の育成に努めている点、②全体プログラムの中の一部として、パートナー都市が実施する青少年交流プログラムへの派遣を含ませている点、③参加学生が招待／派遣の両方の訪問プログラムに参加できるようになっているという共通の特徴がある。濟州によると、濟州のプログラムは奈良の方式を取り入れたものである由。

また、濟州は、各種行事への参加・招待を通じて、別の年の東アジア文化都市との交流も活発に実施しているのが特徴である。

寧波は、濟州、奈良における交流行事に青少年を派遣するとともに、同市にて開催される青少年交流プログラム等の行事に奈良や濟州の学生を招いている。また、同地で行われた文化行事に両都市を招いた実績もある。

奈良による取組み

東アジア文化創造NARAクラス

奈良市が主導し、寧波及び濟州とタイアップしつつ実施している青少年交流。募集した奈良の若者は、まず、講座・ガイダンスで日中韓の文化を学ぶと同時に、奈良を海外の人に紹介できるよう学習する。続いて、中韓から招いた若者に、奈良の文化を体験し、相互理解と交流を深める。さらに、希望者は、寧波又は濟州を訪問し、各都市で開催される青少年交流プログラムに参加する。最後に、全体の報告会を実施する形となっている。

奈良の高校生及び大学生を、一定期間に複数の段階で行事に参加させることを通じて、より深く学び、相互理解を目指している点に工夫がみられる。また、三国で持ち回りで実施するのではなく、パートナー都市が実施する行事への参加を通じて事業を展開している点も特徴である。



(写真提供：奈良市)

○2019年の実施例（2018年以前も実施。一部は予定）

1	東アジア学びの扉	6～7月に計3回。講座・ガイダンス
2	日中韓 青少年交流プログラムin NARA	8月下旬。中韓の学生を迎えて、奈良で文化交流を実施。フィールドワークやワークショップを実施
3	東アジアへの旅	中国・寧波青少年交流プログラムへの参加（8月） 韓国・濟州青少年文化キャンプへの参加（9月）
4	プログラム報告会	9月末



2018年の奈良での行事の様子
(写真提供：奈良市)

寧波による取組み

寧波主導の行事としては、青少年は2017、2018年については1地域ずつ招待する形で実施されていたが、2019年には3地域すべて揃う形での青少年交流事業が実施された。



2018年寧波国際大学生祝祭
(写真提供：濟州特別自治道庁)

寧波国際大学生祝祭」への大学生招待	2017年6月	濟州が参加
	2018年7月	
	2019年6月	
2 都市間の交流プログラム (奈良の高校生招待)	2017年11月	2019年は下記のとおり3地域間のプログラムを実施
	2018年9月	
3 地域 (寧波・奈良・濟州) の交流	2017年11月	伝統工芸交流 (3地域のプロの工芸家による展示・ワークショップ)
	2018年6月	寧波市象山県海洋漁業文化保護祭 (3地域及び清州市 (2015年文化都市) が参加)
	2019年8月	同市にて3地域の青少年交流プログラム実施。寧波の歴史・文化を撮影する活動を実施

濟州による取組み

濟州文化外交官

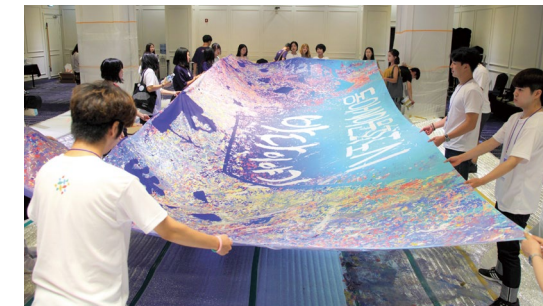
濟州とUNITAR (国連訓練調査研究所) 濟州国際研修センターが、濟州の青少年達のグローバル文化活動及び交流を支援するために共同で実施している事業。2018年から実施している。参加した青少年が下記①から④まで通して参加することにより、濟州の文化を発信し、国際理解を深めた人材を養成することを目指している。

○2019年の例 (一部は予定)

1	オリエンテーション及び濟州文化学習	3月末
	濟州フォーラム文化セッション聴講	5月末
	国際文化ウィーク参加	10月中
2	海外文化交流派遣 (下記より1回)	
	寧波国際大学生祝祭参加 (6月)	6月
	寧波・日中韓青少年交流プログラム参加	8月
3	奈良・日中韓高校生交流 (「日中韓青少年交流プログラムin NARA」) 参加	8月
	濟州・日中韓青少年文化キャンプ (全員)	9月
4	評価ワークショップ	12月

東アジア文化都市濟州青少年文化キャンプ

2016年以降毎年実施している同キャンプは、3都市及び濟州と交流のある各都市から100名前後の青少年が参加する大規模行事となっている。



行事ステージで用いる横断幕を共同制作 (2018年)
(写真提供：濟州特別自治道)

○ 2018年の実施例

2018年5月（4日間）	
参加者	学生、指導者等含め約100名
参加都市	日本：沖縄（奈良は、同年度は時期の関係から別の済州のプログラムに参加） （数字は東アジア文化都市の年度） 中国：泉州(14)、寧波(16)、大連、上海、 韓国：光州（14）、清州（15）、済州（16）、大邱（17）
実施内容	日中韓の青少年が音楽・美術・映像の3つのチームに分かれ、創作プロジェクトを実施した。（2019年は9月20日～23日に実施予定）

（カッコ内の数字は東アジア文化都市の年度）

耽羅文化祭への参加*

*2016年から毎年実施

済州最大の文化行事「耽羅文化祭」に、過去の東アジア文化都市等の日中韓アーティストを招き、公演を行うとともに、地元小学校で文化教室（公演+ワークショップ）を実施している。この文化教室方式は、2016年に参加した日本（奈良）側公演者が、是非子ども達に教えたいと申し出たことから実現し、好評だったことからその後定着するに至ったもの。その後、済州の文化教室に招かれた他の日本側都市が、この方法を逆に日本の文化交流行事に取り入れている。

○ 2018年の実施例

2018年10月	京都（17）、泉州（14）、寧波（16）、上海、海南から招待。
----------	---------------------------------

（カッコ内の数字は東アジア文化都市の年度。2019年も10月に予定）

他の東アジア文化都市の文化行事への参加

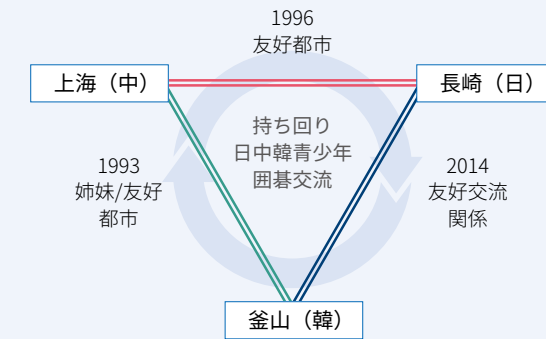
済州は、他の年度の東アジア文化都市行事等にも積極的に参加している。

2017年	新潟（15）、泉州（14）、光州（14）、清州（15）の行事に公演団や学生派遣。
2018年	横浜（14）、新潟、ハルビン（18）、清州、大邱（17）の行事に公演団派遣。
2019年	横浜、泉州、西安（19）、光州、清州、大邱の行事に公演団等派遣。

（カッコ内の数字は東アジア文化都市の年度）

ながさき 長崎県（日） しゃんはい 上海市（中） プサン 釜山広域市（韓）

青少年囲碁交流を通じた日中韓交流



長崎県、上海市、釜山広域市は、ともに互いの国への玄関口となる港湾を擁していることに共通点を有している。

上海市と釜山広域市は1993年に姉妹/友好都市締結、96年には長崎県と上海市が友好都市締結、2014年には長崎県と釜山広域市が友好交流協定を締結し、三地域間のトライアングルが形成された。

以降、三地域は実務者会合を重ね、その成果として、2018年1月に第1回の青少年囲碁交流大会が上海にて実施され、翌19年には長崎県で第2回が実施された。

長崎県は、この3地域の枠組み以外でも数件の日中韓交流事業を実施している。釜山広域市は、2018年の東アジア文化都市として、パートナー都市の金沢市とハルビン市と交流も継続している。

2018年～：3国持ち回りで青少年囲碁交流大会を実施

この大会は、それぞれ友好関係にある3都市間の交流拡大を図るほか、参加者の囲碁競技レベルの向上、国際的視野の広がりや国際コミュニケーション能力の向上につなげることを目的としている。

囲碁を通じた三都市・地域間の交流は、他に「唐津（日）－揚州（中）－麗水（韓）」と「金沢（日）－蘇州（中）－全州（韓）」の事例がみられるが、「長崎－上海－釜山」の場合、構成は小学生から高校生にわたっており、比較的年齢層が低いのが特徴である。囲碁は、（1）三国共通の文化である点、（2）共通のルールであるため言語の壁がないことが特徴である。主催者側は通訳を用意してはいるものの、参加者たちは、言葉は通じなくとも、囲碁の手を教え合うことは可能であり、通訳なしでコミュニケーションをすることも多かった由である。

これまでの開催実績

2018年1月	第1回	上海
2019年1月	第2回	長崎

[参考] 2016年～：長崎県による「長崎－上海－釜山」枠組み以外での日中韓交流の取組み

長崎県は、「長崎－上海－釜山」の枠組み以外でも、独自に日中韓交流事業を行っている。

(1) 「日中韓トライアングル交流会」

同時期に長崎県で実施される大学生向けの日中及び日韓の二国間青少年交流プログラムの1日を「日中韓トライアングル交流会」とし、グループ討論、講演会・文化視察を合同で行っている(2019年から3日に拡大)。

なお、日中のプログラムは長崎県と姉妹・友好交流関係にある湖北省、福建省、上海市からの大学生が参加し、日韓のプログラムは、釜山広域市(友好交流関係)、ソウル特別市(長崎県事務所所在地)、日韓海峡沿岸県市道交流知事会議の韓国側メンバーである全羅南道、慶尚南道、済州特別自治道(及び釜山)の計5地域から大学生が参加している。



(写真提供：長崎県庁)

これまでの開催実績

2016年8月	第1回	二国間青少年交流プログラムの「日中『孫文・梅屋庄吉』塾」及び「日韓未来塾」の日程の1日を「日中韓トライアングル交流会」として実施(両プログラム参加の日本人、日中プログラム参加の中国人、日韓プログラム参加の韓国人が参加)
2017年8月	第2回	
2018年8月	第3回	
2019年1月	第4回	二国間青少年交流プログラムの「未来へつなぐ日中青少年交流事業」「日韓未来塾」の日程のうち長崎滞在期間の3日間を「日中韓トライアングル交流会」として実施。3か国の学生が交流する日数を1日から3日間に増加させた。(両プログラム参加の日本人40人、日中プログラム出席の中国人20人、日韓プログラムの20人が参加)なお、同年の「日韓未来塾」の他の日程は釜山で行われた。

(2) 「東アジア相互交流促進事業」

公益財団法人「長崎県国際交流協会」は、民間団体等が行う日中韓交流事業に対し、事業1件あたり45万円を上限に助成を行っている。2016年より毎年募集を行っており、2016年及び18年には長崎・上海・釜山の小学生サッカー大会、2017年は芸術祭「対馬アートファンタジア2017」に助成が行われた。

「対馬アートファンタジア2017」では、日中韓18人のアーティストが行事開始前1か月程度対馬に滞在し、地元住民の協力を得ながら対馬をリサーチし、歴史、文化を肌で感じながら対馬をテーマに作品制作を行った。



韓国人アーティストによる制作風景及び作品
(両写真とも撮影：山本糾氏)

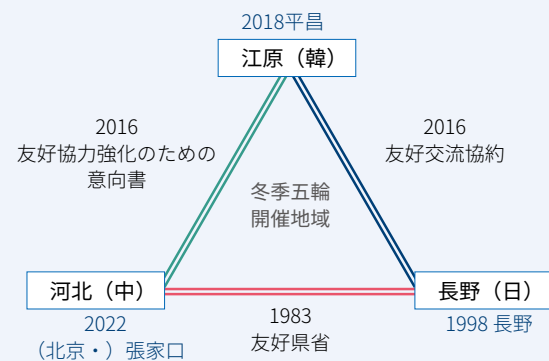
(3) 東アジア・ミュージック・フェスティバル

日中韓の音大生が集まり、開催する音楽イベント。長崎大学が事務局となって実施している。

2016年	第1回	
2017年	第2回	
2018年	第3回	
2019年7月	第4回	参加大学：上海師範大学音楽学院(中国)、昌原大学校芸術大学(韓国)、活水女子大学、長崎大学

ながの 長野県 (日) ・ かほく 河北省 (中) ・ カンウォン ド 江原道 (韓)

冬季オリンピック・パラリンピック開催都市間の交流



長野県（日本）、河北省（中国）、江原道（韓国）の3地域は、ともに冬季オリンピック・パラリンピックの開催地という共通点をもつ。河北省の張家口では、2022冬季オリンピックのうちスノースポーツが開催される。

長野県と河北省は、1983年に友好県省が締結され、比較的長い歴史を有するが、平昌や河北省が冬季オリンピックの会場都市となることが決定した後、長野県と江原道は2016年に友好交流協約締結、河北省と江原道も同じく2016年に「友好協力強化のための意向書」が締結された。

2017年、2018年：「冬季オリンピック経済協力フォーラム」開催

冬季オリンピック・パラリンピックのレガシー活用と冬季オリンピック開催都市間の経済協力の増進をはかるため、地方政府関係者及び専門家が出席する形で、平昌大会直前の2017年から実施されている。主導している江原道は、第1回は大会レガシーの共有を受ける側から、第2回では、自らの経験を河北省（2022年北京における張家口会場）に共有する側となっている。

これまでの開催実績

2017年9月	第1回	(江原道江陵市) 参加：長野県、河北省、江原道、ソチ（ロシア）
2018年9月	第2回	(同上) 参加：長野県、河北省、江原道



左: 2018年開催時の団体写真, 右: 2018年開催時、フォーラムの様相 (写真提供：江原道)

2017年「東アジア文化都市」、文化・青少年交流を継続



京都（日本）、長沙（中国）、大邱（韓国）の3都市は、2017年の1年間、「東アジア文化都市」として多彩な交流事業を展開した。

同年11月19日、京都閉幕式の際、3都市の市長は「東アジア文化都市2017 京都共同宣言」に署名した（写真提供：京都市）。同宣言は、以下を骨子としている。

1. 次世代のアーティストの育成を目指し、芸術系大学生の交流等、若者の文化交流を継続していく。
2. 未来志向の関係構築のために、市民、文化芸術団体、大学、企業等、民間の文化交流活動の機会を創出し、都市の魅力を高め合う。
3. 東アジア文化都市のネットワーク構築のために幅広い交流促進に努め、持続可能な都市の発展を推進するとともに、東アジアの平和的発展に貢献する。



（写真提供：京都市）

同宣言に基づき、2018年以降の交流は、主として「青少年交流」（芸術系大学生等の相互訪問・交流）と、「文化交流」（相手都市で行われる文化イベントに参加）の2つに大別される。前者の青少年交流も、東アジア文化都市のフォローアップという観点から、文化・芸術系の学生・若者の交流に比重が置かれているのが特徴である。

2018年8月：京都及び大邱で青少年交流事業を実施

「京都共同宣言」にもとづき、京都市及び大邱広域市において、青少年交流事業が実施された。2018年は、日本及び韓国の二市間で実施された。

京都市における交流プログラム

8月10日から13日にかけて、京都及び大邱の文化芸術を学ぶ大学生が集い、京都の暮らしの文化、伝統産業に触れるフィールドワークやグループワークを通して、日本と韓国の文化の共通性・多様性について意見交換を行い、共同でマンガを制作し、成果発表を行った。

京都市からは京都市立芸術大学、京都造形芸術大学、京都美術工芸大学、「京都学生PR大使」の学生など8名が参加し、大邱広域市からは、慶北大学、大邱カトリック大学等より6名が参加した。



（ともに写真提供：京都市）

大邱広域市における交流プログラム

8月30日から9月2日にかけて、京都及び大邱の音楽を学ぶ大学生が大邱広域市に集まり、交流プログラムに参加した。大邱広域市の文化施設や音楽コンクール本選の見学、セミナーへの参加のほか、2018ポジャギフェスティバルでの公演を行った。

京都市からは同志社女子大学学芸学部音楽学科の学生8名が、大邱広域市からは慶北大学及び啓明大学等から9名の学生が参加した。

2018年8月：大邱「2018東アジア・ポジャギフェスティバル」に京都、長沙から参加

8月31日から9月2日にかけて、京都市及び長沙市は、大邱広域市で行われた「2018東アジア・ポジャギフェスティバル」に前年に引き続き、参加した。「ポジャギ」とは、物を包む風呂敷のような布のこと。「大邱ポジャギフェスティバル」は、ポジャギの包容性と多様性を象徴とし、東アジアの代表的な文化フェスティバルを目指し、東アジア文化都市に指定されていた2017年から始められた。

期間中、日中韓の若手アーティストによる音楽、舞踊、美術分野などのストリート・パフォーマンス「青年芸術祭」が行われ、京都市から現代舞踊家が派遣された。また、「三国和合伝統公演」においては、三都市の音楽家による伝統音楽公演等が行われた。

また、「ポジャギ作品・体験展」においては、日中韓の伝統工芸品が出展され、市民向けの体験ワークショップが実施された。京都市及び長沙市から伝統工芸の職人が派遣された。

東アジア文化都市に選定された歴代韓国都市の広報ブースも設けられ、光州広域市（2014年）は観光名所VR体験、清州（2015年）は「箸フェスティバル」に関連して箸づくり及び教具体験、済州特別自治道（2016年）は柿渋染体験プログラムを実施した。

2018年11月：京都「kokoka（国際交流会館）オープンデイ2018・京都市平和祈念事業」に大邱から参加

京都市には、約4万人（人口の約3%）の外国籍の人々が暮らしており、外国につながりを持つ人とのふれあいや交流の機会が、身近なものとなっている。11月3日、京都国際交流会館（kokoka）にて、国や地域を超えた人と人とのふれあいや異文化を楽しむことにより、異文化への理解を進めるとともに、平和の尊さを感じてもらうため、「kokokaオープンデイ2018・京都市平和祈念事業」を開催した。同事業では、東アジア文化都市交流事業とタイアップし、日中韓三か国の芸術家によるステージパフォーマンスが行われ、大邱市からは伝統楽団が参加した。

2019年3月：「KYOTO STEAM」の日中韓ステージに長沙、大邱参加

3月23日から24日にかけて、京都市は、東アジア文化都市の交流の継続により、文化の力で東アジアの平和的發展に貢献するため、「KYOTO STEAM - 世界文化交流祭 - prologue」とタイアップし、日中韓3都市の文化芸術団体による日中韓ステージを実施した。京都からはブレイクダンス、パントマイム及びマジック、長沙市からはクラシック音楽、大邱広域市からは伝統音楽、現代舞踊及びミュージカルガラのアーティストがそれぞれ参加した。



長沙及び大邱による公演。
(写真提供：京都市)

2019年7月～：青少年交流+文化交流によるフォローアップ事業2年目

青少年交流

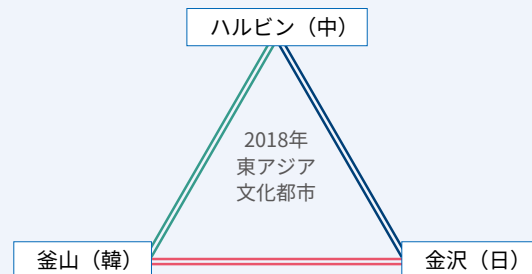
京都実施	8月7日～11日	京都及び大邱の芸術分野を専攻する大学生それぞれ8名ずつが参加し、フィールドワークや文化体験を実施。
大邱実施	11月（予定）	京都及び大邱のフルートを専攻する大学生それぞれ7名ずつが参加し、文化体験や同時期に行われる「ポジャギフェスティバル」の公演に参加。

文化交流

京都実施	11月（予定）	「kokokaオープンデイ」のステージで日中韓文化公演を行い、大邱から公演団が参加。
大邱実施	11月（予定）	「2019東アジア・ポジャギフェスティバル」にて京都市が伝統工芸職人によるブースを設置。日中韓文化公演に京都から公演団が参加。

かなざわ **金沢市（日）** ・ ハルビン市（中） ・ プサン **釜山広域市（韓）**

2018年「東アジア文化都市」、文化交流のフォローアップ事業を開始



石川県金沢市（日本）、黒龍江省ハルビン市（中国）、釜山広域市（韓国）の3都市は、2018年の1年間、「東アジア文化都市」として多彩な交流事業を展開した。

2019年は、夏から秋にかけて、3都市で実施される文化行事にアーティストを派遣し、交流活動を行う予定である（2019年8月現在）。

なお、金沢市は蘇州市（中国）及び全州市（韓国）との姉妹・友好都市関係を基盤に図書館や囲碁の交流を行っており、釜山広域市は、長崎県及び上海市と友好協力関係又は姉妹・友好都市関係にあり、青少年囲碁交流大会を持ち回りで実施しているなど、他の3都市トライアングル交流も実施している。

2019年8月以降：金沢・ハルビン・釜山で文化交流事業を実施

3市は、東アジア文化都市2018のフォローアップ事業を2019年以降実施していく予定であり、2019年は、8月以降年内にかけ、3都市で実施される文化行事にアーティストを派遣し、交流活動を行う方向で準備が進められている。

実施内容

2019年	8月2日～3日	ハルビンの音楽行事に金沢のオーケストラが出演
	8月23日～24日	ハルビンの音楽行事に釜山の管弦楽団が出演
	9月21日～22日	釜山の文化行事「東アジア文化の森」に金沢及びハルビンの音楽家出演、参加（日中韓音楽家によるクラシックの共演等）、金沢の伝統工芸ブース出展
	10月19日～20日	金沢の各種行事にハルビン及び釜山の音楽家（合唱団、伝統楽団）が出演

第2章

3国の地方都市交流メカニズムと行事



東アジア文化都市

文化を通じて3都市が交流する大型事業

「東アジア文化都市」事業は、2012年5月に行われた第4回日中韓文化大臣会合（於：上海）での合意に基づき、日本・中国・韓国の3か国において、その国の伝統文化を代表する文化都市又は文化芸術による発展を目指す都市を選定し、その都市において、様々な文化芸術イベント等を実施するとともに、3都市を行き来しながら文化交流行事を実施する事業である。これにより、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることを目指している。先行事例として、EUが1985年から実施している「欧州文化首都」がある。

また、東アジア文化都市に選定された都市がその文化的特徴を生かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、事業実施を契機として継続的に発展することも目的としている。この観点から、3都市は、その年以降も文化交流や青少年交流を継続している。また、2016年の済州特別自治道のように、異なる年度の都市との文化・青少年交流を積極的に展開している事例もみられる。

日中韓都市間のトライアングル交流は、東アジア文化都市のフォローアップ事業が順調に継続する場合、毎年1つつ交流都市のトライアングル・グループが増加していき、日中韓3国民間の相互理解の増進にとって貴重なアセットとなっていくことが期待される。



2019東アジア文化都市の3地域のロゴ。
(提供：仁川広域市、西安市、豊島区)

これまでの「東アジア文化都市」

年度	中国	日本	韓国
2014	泉州市	横浜市*	光州広域市
2015	青島市*	新潟市	清州市
2016	寧波市	奈良市	済州特別自治道*
2017	長沙市	京都市*	大邱広域市
2018	ハルビン市*	金沢市	釜山広域市
2019	西安市	東京都豊島区	仁川広域市*
2020 (予定)	揚州市	北九州市*	順천시

*は、日中韓文化大臣会合開催地

日中韓3か国地方政府交流会議

3か国の地方政府が一堂に会する大型行事、21回目を迎える

「日中韓3か国地方政府交流会議」は、歴史的、地理的にも密接な関係にある日中韓3か国の地方政府間の国際交流・協力を一層促進することを目的に、3か国の国際交流機関（日本・自治体国際化協会、中国・中国人民対外友好協会、韓国・大韓民国市道知事協議会）が主催し、持ち回りにより1999年より毎年実施しているものである。毎回数百人の地方政府関係者が出席する大型行事である。

2019年は、メインテーマは「北東アジア地方政府における地域資源を活かした魅力の創造」の下、10月28日から31日までの4日間にわたり、日本の愛媛県で開催される。



(写真提供：自治体国際化協会)

主な内容

- 日中韓地方政府の交流協力のグッドプラクティスの共有
- 日中韓地方政府交流協力のあり方及び地方行政に関する懸案事項の討論
- 日中韓広報ブース及び交流の場の運営
- 開催都市の地方行政グッドプラクティスの現場視察

これまでの実績

年度	回	開催地	メインテーマ
1999	第1回	韓国／ソウル特別市	日中韓自治体間交流協力の増進
2000	第2回	中国／北京市	ニュー・ミレニアムにおける日中韓3か国地方政府間の交流と協力の展望
2001	第3回	日本／東京都	グローバリゼーションの時代における"新たな地域のあり方"をさぐる
2002	第4回	韓国／ソウル特別市	北東アジア地域の経済協力を通じた地方政府の共同発展
2003	第5回	中国／無錫市	地域経済の振興と地域協力の促進における地方自治体国際交流の役割
2004	第6回	日本／新潟県	3か国の相互発展に向けた地域政策のあり方～交流の促進と地域間連携
2005	第7回	韓国／江原道	北東アジア地域の共同発展のための日中韓地方政府の役割
2006	第8回	中国／ハルビン市	北東アジアの友好を促進し、共同発展と繁栄を実現
2007	第9回	日本／奈良県	北東アジアにおける交流の拡大と地方政府の役割
2008	第10回	韓国／全羅南道	地域活性化による発展方案
2009	第11回	中国／長春市	地方政府の交流と協力を強化し、北東アジア地域の共同発展を促進
2010	第12回	日本／長崎県	地域間協力の推進による北東アジア地域の発展
2011	第13回	韓国／全羅北道	地域の特色を活かした北東アジアの地方政府間の交流活性化
2012	第14回	中国／昆明市	交流協力を深め、地方政府の共同発展を促進する
2013	第15回	日本／富山県	地域の特色を生かした取組みと北東アジアの相互発展
2014	第16回	韓国／亀尾市	人文交流の拡大による日中韓交流の活性化
2015	第17回	中国／義烏市	持続可能な都市間交流及び都市の国際化による発展
2016	第18回	日本／岡山市	地方政府交流による北東アジア地方の活性化
2017	第19回	韓国／蔚山広域市	新しいパラダイム提示（発想の転換）を通じた東北アジア地方政府発展施策の模索
2018	第20回	中国／開封市	北東アジア地域における互恵的連携協力体制の構築

出典：自治体国際化協会ホームページ

東アジア経済交流推進機構（OEAD）

前身を含め四半世紀を超える、経済特化の日中韓地域協力機構



(2018年仁川総会：写真提供北九州市)

東アジア経済交流推進機構（OEAD）は、日中韓の沿岸11都市により構成される経済交流に特化したプラットフォームである。会員都市の連携、経済交流、相互のネットワークの強化等により、経済活動及び都市間交流の活性化を推進し、環黄海地域における新たな広域経済圏を形成するとともに、東アジア経済圏の発展に貢献することを目的に設立された。

このプラットフォームは、現在も継続している日中韓の地域交流の中で最も歴史が長いものの一つであり、そのルーツは1991年にまでさかのぼる。同年、環黄海地域における新たな経済圏を形成することを目的として、「東アジア都市会議」及び「東アジア経済人会議」がスタートした。当初は、北九州市・下関市（日本）及び両市の姉妹・友好都市である大連市・青島市（中国）、仁川広域市・釜山広域市（韓国）の6都市で構成した両会議は、その後、天津市・煙台市（中国）、蔚山広域市（韓国）、福岡市（日本）の4都市が加わり、2004年に経済交流に特化したプラットフォームづくりを目指して、日中韓の10都市で東アジア経済交流推進機構が設立され、2014年の熊本市（日本）の加入を経て、現在の11都市体制になった。

機構の組織は、総会・執行委員会・部会・第三者評価委員会・事務局から構成される。

総会

会員都市の行政と経済団体（商工会議所・国際商会）の代表が構成する機構の意思決定機関。会員都市の持ち回りにより開催する。

執行委員会

総会を開催しない年に開催する実務者会議。総会を補佐し、諸課題について協議する。

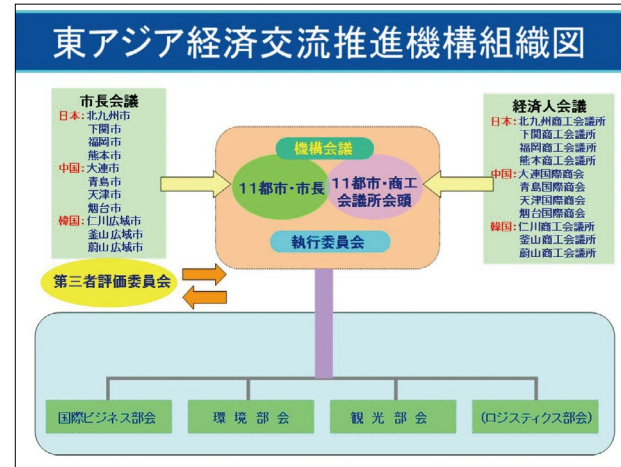
部会

専門事項を協議し共同事業を実施する機関として4部会を設置している。（国際ビジネス部会、環境部会、観光部会、ロジスティクス部会）

第三者評価委員会

機構活動・運営を有機的に機能させるため、専門的知見かつ客観的視点から助言・評価を行う機関。日中韓各1名の有識者で構成する。

事務局：機構の庶務を行う機関。北九州市・下関市の行政・商工会議所が共同で北九州市に設置。



(出典：「東アジア経済交流推進機構」ホームページ)

環黄海経済・技術交流会議

「環黄海地域経済圏」形成を目指し、黄海沿岸地域等が参加



第17回会議 韓国・群山市
(写真提供：経済産業省九州経済産業局)

「環黄海経済・技術交流会議」は、日中韓の「黄海」を取り巻く地域からなる経済圏域（環黄海地域経済圏）発展・深化を目指す交流のステージとして、2001年3月にスタートした。

同会議は、日本側九州経済産業局、中国側商務部、韓国側産業通商資源部の3か国政府機関を始め、関係する自治体や経済団体、企業、研究者等が一堂に会し、貿易・投資、技術・人材等の相互協力について話し合うとともに、具体的なビジネスのきっかけを掴む場となっている。

○日本（九州）

全域

○韓国

京畿道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尚南道、仁川広域市、大田広域市、光州広域市、釜山広域市の5道4市

○中国

遼寧省、河北省、山東省、江蘇省、北京市、天津市、上海市の4省3市

これまでの開催状況

第1回	2001年3月	日本・福岡県福岡市
第2回	2002年10月	韓国・全羅北道全州市
第3回	2003年9月	中国・山東省威海市
第4回	2004年10月	日本・宮崎県宮崎市
第5回	2005年11月	韓国・大田広域市

第6回	2006年9月	中国・山東省日照市
第7回	2007年11月	日本・熊本県熊本市
第8回	2008年10月	韓国・仁川広域市
第9回	2009年7月	中国・山東省煙台市
第10回	2010年10月	日本・福岡県北九州市
第11回	2011年11月	韓国・大田広域市
第12回	2013年11月	中国・江蘇省連雲港市
第13回	2014年11月	日本・長崎県佐世保市
第14回	2015年11月	韓国・釜山広域市 テーマ「医療・バイオ、新・再生エネルギー、産業団地、人材育成」
第15回	2016年7月	中国・江蘇省塩城市 テーマ「環境に配慮したイノベーションと開放的な融合」
第16回	2017年11月	日本・鹿児島県鹿児島市 テーマ「地域間交流の促進」「イノベーションを通じた新産業・新市場の創出」
第17回	2018年11月	韓国・全羅北道群山市 テーマ「地域間交流の促進」「イノベーションを通じた新産業・新市場の創出」

東アジア地方政府3農フォーラム

地方農政を媒介とした日中韓の地方政府間の交流協力関係構築を目指す

「東アジア地方政府3農フォーラム」は、①21世紀の農業・農村の未来及び価値に対する重要性に関する認識を内外に拡散させ、②3農政策（農業・農村・農民政策）の発展の方向・地方政府の役割について模索し、経験を共有し、③地方農政を媒介とした日中韓の地方政府間の交流協力関係を構築するために2015年より毎年3国のいずれかで実施されている。

同フォーラムが実施されるきっかけは、奈良県が中心となり毎年実施されている「東アジア地方政府会合」の第5回会合（2014年、於：奈良）にて、同県と友好提携関係にある韓国・忠清南道が農業に関するフォーラムを実施するよう提案があり、これを受けて翌2015年以降、忠清南道が中心となる形で実施することになったものである。このため、現在までのところ、開催地は忠清南道又は同道と姉妹交流や友好提携関係にある県・省において実施されており、既存の各地域との友好協力関係を経済面で有効に活用した事例となっている。



2018年実施時のポスター
(写真提供：忠清南道)

これまでの実績

第1回	2015年 9月	忠清南道礼山郡 (韓国) テーマ：農業・農村・農民のための地方政府の道 参加者：約700名
第2回	2016年10月	10月 静岡県静岡市 (日本) テーマ：①食農連携と健康長寿、②都市と農村の交流、③農業の6次産業化 参加者：約300名
第3回	2017年 9月	2017年 9月 貴州省貴陽市 (中国) テーマ：山地農業を発展させ、緑の恩恵を共有する 参加者：約300名
第4回	2018年 9月	忠清南道礼山郡 (韓国) テーマ：農業・農村の新たな未来を論じる 参加者：約500名
第5回	2019年11月	四川省成都市 (中国)〔予定〕



(写真提供：忠清南道庁)

韓日中公務員3国協力ワークショップ

韓国外交部主催、日中韓の若手地方公務員の交流の場

「韓日中公務員3国協力ワークショップ」は、①3国協力に対する理解の増進、②3国の地方レベルの協力の発展の方策についての意見交換、③3国の公務員間のネットワーク構築を目的に韓国外交部が2012年から毎年実施しているワークショップである。主な参加者は、韓国の地方都市で国際協力関連業務に携わる韓国公務員と、韓国で勤務又は研修中の日本人及び中国人公務員である。韓国で勤務中の日本・中国の公務員の多くは、姉妹・友好都市関係にある道や市に派遣された日・中の若手地方公務員であり、将来にわたるネットワーク形成と、それを通じた地方間交流に役立っている。

2019年5月に実施された直近のワークショップは慶州で実施され、韓国人38名、日本人15名、中国人35名の計88名が参加した。日中韓三国協力事務局の山本事務次長が「3国協力の現況とTCS」とのタイトルで講演を行い、続いて丁相基（チョン・サンギ）元東北アジア協力大使による日中韓の文化比較に関する講演、日中韓の参加公務員による3国協力の事例の発表などが行われた。1泊2日の期間中、文化公演・体験活動等も実施された。



2019年ワークショップの際の団体写真
(写真提供：韓国外交部)



Trilateral Cooperation Secretariat

비매품/무료

93350



9 791188 016242

ISBN 979-11-88016-24-2